



## はじめに

関西大学地域連携センターは、地域との連携に関する本学の窓口として2005年4月に設置されました。

関西大学の学是は「学の実化<sup>じっげ</sup>」。この教育理念の提唱者 山岡順太郎（1922年、大学昇格時の総理事、のちに第11代学長）はこの理念を、「学問の実質的価値は、其の社会化価値である。苟も学問である限り、確たる現実の事相に即し、実際から出発して一の原理に到達する順序と、更に学術的思索から実際に帰るといふ順序とが、表裏一体のものとならねばならぬ」（『千里山学報』第8号）と説明しています。地域連携活動は、人びとの生きている現実のなかから学んで学理に到達し、他方でまた、獲得しえた学問の成果を人びとの暮らしのなかに活かそうとする点で、まさに本学の学是「学の実化」を実践する営みです。

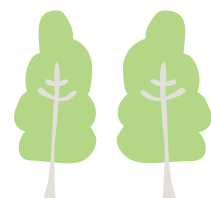
関西大学地域連携センターでは、様々な学部の教員が中心となって地域で実践してきた諸活動を各方面に広くご紹介するために『関西大学地域連携事例集』を発行しております。

本事例集の発行を通して、各教員が地域課題の解決と可能性の探求に、多様な専門性と経験、ネットワークと新たな発想力を集結して取り組み、地域のみなさまと共により良い社会を築こうと協働している実態、「学の実化」の実践の一面をご理解いただき、関西大学と地域のさらなる連携の発展にお力添えいただければ幸甚に存じます。

関西大学地域連携センター長 山名 美加

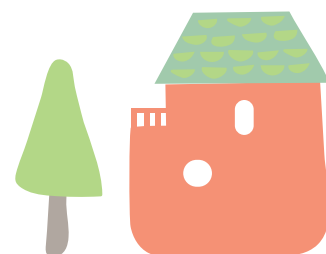
### 関西大学地域連携ポリシー

- 1 自治体などを介して、地域社会と本学との教育研究の協働を実現することを通じて、地域社会の課題を解決することを目的とする。
- 2 地域連携を活発化することで、本学の教育研究活動の高度化を促進する。
- 3 持続的な事業の展開を実現するとともに、教育研究に関わる連携事業の成果を蓄積する。
- 4 地元大阪・関西地区において、長年にわたり教育研究活動を積み重ねる本学の地域性を発揮する。
- 5 総合大学としての強みを生かし、多様な考え方や価値観から生じる課題を有する、地域社会のニーズに対応する。
- 6 関西大学をハブとして、地域社会からグローバル社会における多様な主体間の連携を創造し、高等教育研究機関としての責を果たす。



## Contents

はじめに .....	1
関西大学は地域連携活動で何をめざしているか .....	3
地域連携活動と SDGs .....	3
事例一覧 .....	4
事例のご紹介 .....	7
地域連携センターのご紹介 .....	33
「ごちゃまぜ協働」による ソーシャル・アントレプレナーシップ育成プログラム .....	34
〈地域で活動する若い力〉奨励賞 .....	35
関大みらい～ねフェスタプロジェクト .....	36
地域連携協定一覧 .....	38
地域連携活動の沿革 .....	39
地域連携センターの位置づけ .....	39
地域連携事業に関する Q&A .....	40
地域連携協定書 雛型 .....	42
学部・研究科一覧 .....	43
地域連携センターのご案内 .....	44
お問い合わせ先 .....	44



## 関西大学は地域連携活動で何をめざしているか

“社会”という語が広く開かれたイメージを呼び起こすのに対して、“地域”という語はひとつのまとまりを連想させます。そこには仕事も年齢もさまざまな人びとが住んでいて、地域が抱える問題もいろいろですが、互いに関わり合いながら、「ここに暮らしていてよかった」と思えるような居場所を作り上げることに“地域”の幸福はあるでしょう。関西大学が地域連携活動を通じてめざすところもそこにあります。

しかし、研究と教育の機関である大学が、地域連携活動において何ができるのか。関西大学地域連携センターは、地域連携活動の目的と理念を以下の4つの項目に整理して考えています。



### 地域のニーズに 大学が応える

地域の抱える課題はさまざまです。総合政策、安全・安心、人材育成、都市デザイン、環境・アセットマネジメント、福祉・人権、教育、文化・スポーツ振興、産業振興、健康・医療など……。13の学部、15の研究科、国際部、教育推進部に研究者を擁する関西大学は、その豊富な人材を活かして地域の課題に応えるべく、地域連携活動に取り組んでいます。



### 若い力が地域を 活性化する

大学は若者が集います。教員のゼミで、また自主結成した団体で、多くの学生が地域連携活動に従事しています。「よそから来た若い人がこの土地に関心を持っている。この土地のよさを再発見した」。そういう感想をよくいただきます。若者の姿には、地域を活性化する「触媒」の働きがあるようです。



### 大学のシーズを 地域に活かす

どの分野の学問であっても、究極的には、人びとの人生、暮らしのなかでその意義がためされるものです。関西大学の多彩な研究の萌芽が、実際に地域の土壌に根付き、発芽し、開花し、結実することをめざしています。



### 若い力は地域で 伸びる

地域の課題に取り組み、地域の皆さんと交流することで、学生は大学キャンパスのなかでは得られない貴重な経験をさせていただいています。関西大学は、学生がどこで暮らすにしてもその地域を支える人材となることを期待して、地域連携活動に取り組んでいます。

## 地域連携活動と SDGs (Sustainable Development Goals)

2018年12月、学長の下に「KANDAI for SDGs 推進プロジェクト」を設置し、SDGsがめざす「地球上の誰一人として置き去りにしない (leave no one behind)」という世界規模の理念・目標の実現に取り組んでいます。

関西大学×SDGs ホームページ ▶ <https://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/>

地域連携活動の要諦は、地域の人びとが「ここに暮らしていてよかった」と思えるような居場所を作り上げることだと心得ています。「地域の課題が世界目標であるSDGsとどう関係するのか」と思う方もいるかもしれません。「持続可能な開発」というフレーズは、1980年にとりまとめられた「世界保全戦略」に初出し、1992年の国連地球サミットで「環境と開発に関するリオ宣言」に具体化されたという長い歴史をもっています。その歴史からすると、このフレーズは何よりも環境の保護と経済成長との調和を提唱しており、クリーンなエネルギーや循環型社会、環境にやさしい技術革新といった目標がただちに思い浮かべられます。

しかし、SDGsはその後の社会経済のグローバル化や、それともなっていく国際間また国内における格差の問題も意識して、人びとの暮らしに関わるきわめて包括的な課題を掲げています。SDGsが明記している諸目標のなかには、まさに地域の抱える課題がめざすところに直結しているものが少なからずあります。

本冊子では、各事例がどの目標に関連しているか、SDGsアイコンを表示しています。



## 事例一覧

### Type : 総合政策

- ▶ これからの行政施設のあり方を考える—法学部・公務員プログラムの取組み—…………… 8  
法学部 石橋 章市朗
- ▶ 人と環境にやさしい交通まちづくり …………… 9  
経済学部 宇都宮 浄人
- ▶ サービスラーニング（自治体との連携：吹田市）“吹田市の課題を解決する”…………… 10  
教育推進部 山田 剛史

### Type : 安全・安心

- ▶ 児童の交通安全意識向上を目指す通学路巻き看板づくりプロジェクト…………… 11  
社会学部 劉 雪雁

### Type : 都市デザイン

- ▶ セとうち魅力発見プロジェクト…………… 12  
商学部 飴野 仁子
- ▶ ヤマ・サトとマチをつなぐメディアづくり～農山村における地域資源の発掘・活用と関係人口の創出～ …… 13  
社会学部 大門 信也
- ▶ スワンをβ本町橋のシンボルにするプロジェクト…………… 14  
社会学部 劉 雪雁
- ▶ 枚方の魅力を“まるっと”楽しむスタンプラリー…………… 15  
社会学部 劉 雪雁
- ▶ 福知山産お茶の知名度向上プロジェクト…………… 16  
社会学部 劉 雪雁
- ▶ 十三デザインプロジェクト…………… 17  
総合情報学部 徳山 美津恵 / 総合情報学部 松下 光範
- ▶ 南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業（咲っく南花台） /  
南花台小・中学校クラブハウス塗装ワークショッププロジェクト…………… 18  
環境都市工学部 大影 佳史 / 先端科学技術推進機構 関谷 大志朗
- ▶ 関わり続ける定住のカタチによる結の故郷づくり / 単位認定講義「地域再生（大野）」の開講…………… 19  
環境都市工学部 北詰 恵一 / 先端科学技術推進機構 三浦 紋人



## Type : 福祉・人権

- ▶吹田プロジェクト 2024 ～募金と交流で築く地域と心の輪～……………20  
社会学部 吉岡 洋子

## Type : 教育

- ▶若狭高等学校と関西大学の高大連携による共修教育の実践  
～地元学と対話によるウェルビーイング教育の推進～……………21  
社会学部 草郷 孝好
- ▶男山地域まちづくり連携協定……………22  
外国語学部 高橋 秀彰

## Type : 文化・スポーツ振興

- ▶尼崎市立歴史博物館における企画展「ダンスホールのまち尼崎」の開催……………23  
社会学部 永井 良和
- ▶若者の視点からの民間スポーツクラブに対する集客企画の提案……………24  
人間健康学部 西山 哲郎
- ▶特定非営利活動法人 関西大学カイザーズ 総合型地域スポーツ・文化クラブ……………25  
特定非営利活動法人 関西大学カイザーズ総合型地域スポーツ・文化クラブ (通称: 関西大学カイザーズクラブ)


## Type : 産業振興

- ▶①愛媛県愛南町「ミッチーのおみかん畑」との河内晩柑を使った商品開発・販売  
②放置竹林対策活動への参加  
③関西における商店街内「分散型ホテル」に関する調査研究……………26  
経済学部 佐々木 保幸
- ▶淡路島の隠れた魅力発見プロジェクト……………27  
社会学部 上野 恭裕
- ▶伝統産業の魅力再発見事業/堺市の伝統産業におけるイノベーション創出プロジェクト……………28  
社会学部 上野 恭裕
- ▶岸和田市観光客誘致に関する調査研究……………29  
外国語学部 井上 典子

## Type : その他

- ▶関西大学嵐山インフォメーションデスク (KAID)……………30  
外国語学部 高橋 絹子
- ▶地域公共交通のあり方について一兵庫県朝来市を走る JR 播但線の利用促進を例に……………31  
社会安全学部 吉田 裕

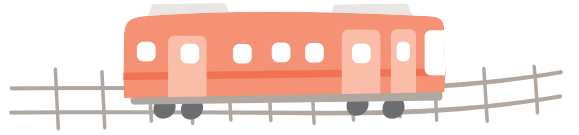


電子 Book はこちら 



※本冊子で取り上げる事例は、関西大学による地域連携活動の一部です。





## 事例のご紹介

---



# これからの行政施設のあり方を考える —法学部・公務員プログラムの取組み—

# 政策的思考  
# 問題分析  
# 政策デザイン



DATA

主な連携先・メンバー  
猪名川町企画総務部  
活動地域  
兵庫県猪名川町  
活動期間  
2022年度～2023年度  
活動資金  
自己資金

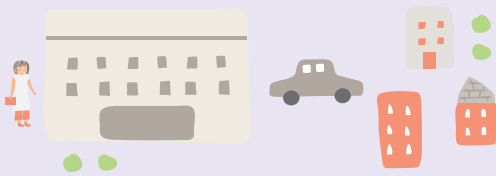
## 目的

公務員プログラムは、国や地方の公務員を目指す学生のキャリア形成を支援し、モチベーションを高めることを目的としている。具体的には、公共政策に関する理論や知識を活用し、実践的な政策課題に取り組むことで、行政機関の機能や職員の役割に対する理解を深めている。特に今回の地域連携では、行政施設を市民と職員が接するインターフェースと捉え、そのあり方を検討することで、本プログラムの目的をより高い次元で実現することを目指した。

## 活動内容

学生たちは、庁舎などの行政施設の耐震化や老朽化対策、施設の建て替えや合意形成の方法など、近年多くの自治体が抱える課題について、文献・新聞記事・国や各自自治体が公開している資料を調査、分析し、授業中に研究報告とディスカッションを行った。

2022年度は、学生それぞれが、各自自治体における行政施設の建て替えや合意形成プロセス、関連する訴訟などをテーマに選び、ケーススタディを通じて課題を抽出し、成功や失敗の要因を明らかにした。2023年度は、受講者が入れ替わったものの、前年度の知見を踏まえ、より具体的に「これからの行政施設の機能や役割」についてグループ研究を行った。



## 活動の成果

- ▶▶2022年度 研究報告書の作成。
- ▶▶2023年度 研究発表会の開催。

## 連携先からの一言

老朽化した本庁舎に関して、ゼミ生や大学院生に学術調査のテーマとして「猪名川町モデル」を研究いただきました。多くの政策提言がまちづくりや地勢的・将来的な観点から寄せられました。後輩のゼミ生たちとの意見交換が楽しく、印象深かったです。



(猪名川町長  
岡本信司氏)

## 連携にいたる経緯

本プログラムでは、国や自治体との連携を通じて、学生が地域課題について学ぶ機会を提供してきた。2022年度と2023年度は、本学地域連携センターの仲介を受け、猪名川町との連携授業を実施することができた。新型コロナウイルス感染拡大により、学生たちは入学以来、行動が制限されてきた。そのような状況だったからこそ、この連携を通じて学生たちはより大きな学びを得られたと考える。猪名川町役場の皆様には、改めて感謝の意を表する次第である。

今回の授業は、兵庫県猪名川町と連携する機会を得たことで、学生たちは理論と実践を融合させた深い学びを得ることができた。同町の協力により、現地視察や自治体職員への聞き取り調査、岡本信司町長とのディスカッションなどを行い、実務的な視点をより補強できたからである。その結果、学生たちの研究意欲も高まり、学生ならではの視点で政策提案を行うことができたのではないかなと思う。



## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶市民や職員との協働の取組みの新しい展開。
- ▶▶理論と実践を融合させた学習経験のさらなる深化。

## 法学部 教授 石橋 章市朗 Ishibashi Shoichiro



国や自治体の政策過程や政策デザインをテーマに研究をしている。また地域課題や政策立案の方法を、中学生や高校生に体験してもらうプログラムを実施するとともに、地方公務員を対象にした研修にも取り組んできた。



# 人と環境にやさしい交通まちづくり

#まちづくり  
#交通  
#環境

## DATA

### 主な連携先・メンバー

人と環境にやさしい交通をめざす協議会／NPO 法人エコエネルギーによる地域交通システム推進協会／国土交通省／環境省／新交通システム推進議員連盟

### 活動地域

全国

### 活動期間

2005 年度～継続中

### 活動資金

趣旨に賛同する団体・企業からの協賛金および助成金（環境再生保全機構「地球環境基金」（2008 年～2011 年）など）



「第 11 回人と環境にやさしい交通をめざす  
全国大会 in 上田」の市民フォーラム

## 目的

全国の交通まちづくりに関心のある人のネットワークを形成し、問題意識の共有と政策提言を行う。

## 活動内容

これまでの交通経済に関する研究内容を基礎に、交通まちづくりに向けた取組みを講演、シンポジウム等で発信するとともに、そうした活動を通じて、交通まちづくりの各地の団体のネットワーク拡大に寄与するもの。

2024 年 3 月には、「第 11 回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」を長野県上田市で開催。長野県知事、上田市長もお招きし、これ

## 連携にいたる経緯

本学赴任以前の宇都宮に対し、「エコエネルギーによる地域交通システム推進協会」からの依頼があり、連携が始まった。

からのまちづくりと交通について熱い議論を行った。過去の大会では、本学の環境都市工学部や経済学部の学生が報告に参加して、学生の視点からの交通まちづくりに関する分析、提言を実施したこともある。

2019 年 3 月からは「地域公共交通の制度財源検討会」を開始し、講師を招いた連続セミナーを本学東京センターおよび梅田キャンパスで実施している。

第 9 回大会（前橋）でのエクスカーション



関西大学の学生が発表する  
第 7 回大会（宇都宮）



制度財源検討会（関西大学東京センター）

## 活動の成果

- ▶▶交通まちづくりの市民活動グループの立ち上げ・サポート（水戸市「スマートまちづくりフォーラム」ほか）。
- ▶▶各地で開催したフォーラムや検討会を踏まえた国会の議連（新交通システム議員連盟）総会での政策提言。
- ▶▶市民活動ネットワークを通じた政策アピール（「新型コロナウイルスによる交通崩壊を防ぐための緊急アピール」ほか）。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶地域公共交通の活性化とコンパクトシティ戦略のための制度・財源の検討。
- ▶▶交通政策基本法、地域公共交通活性化再生法の実践的な活用に向けた議論の喚起。
- ▶▶交通まちづくり活動のネットワーク化。

## 経済学部 教授 宇都宮 浄人 Utsunomiya Kiyohito



日本銀行調査統計局物価統計課長などを経て 2011 年から関西大学へ赴任。専門は、経済統計学、交通経済学。経済学の考え方をベースに交通問題の研究を進めており、日本の交通政策やまちづくりについて各地で提言を行っている。



# サービスラーニング（自治体との連携：吹田市）

## “吹田市の課題を解決する”

#課題解決型授業  
#地域貢献と学びの統合  
#吹田市との連携

### DATA

#### 主な連携先・メンバー

吹田市シティプロモーション推進室・選挙管理委員会事務局・健康まちづくり室

#### 活動地域

大阪府吹田市

#### 活動期間

2023年度～継続中

#### 活動資金

自己負担



無事最終発表会を終えて、吹田市職員のみなさんと記念撮影

### 目的

地域貢献活動と学習活動を統合した実践志向的な学び（サービスラーニング）を通じて、実際に吹田市が抱えている課題に対して異なる専門性を持つ学生たちが協働的な視点で問題解決を試みることに。

### 活動内容

本授業では、吹田市と連携の下、学部横断型のプロジェクト学習を行った。行政との連携という科目の性質上、公務員志望の学生も少なくないが、どの職種においても求められる社会人基礎力を身につけることが可能となっている。自分たちの提案が実際の現場に届けられ、場合によっては施策に反映されるといった責任感・緊張感を味わいながら、チームメンバーと議論し、アイデアを練り上げていく。中間発表や最終発表会では、現場の職員に対してプレゼンテーションを行い、直接フィードバックをもらうことができる。

2024年度は、「選挙管理委員会事務局」および「健康まちづくり室」の

### 連携にいたる経緯

講義科目「吹田市と関西大学」の発展的なPBL授業で3年次以上が受講できる。吹田市との連携プロジェクト（2018・2019年度）、プロジェクト学習2（2020～2022年度）、サービスラーニング（2023年度～）として開講しており、開講当初より吹田市の協力の下進めている。

2部署と連携し、それぞれ「若年層に向けた明るい選挙啓発のためのSNS活用法の考案」、「若年層に対する喫煙防止方法の考案」というテーマのもと、4つの学部から19名の学生が受講し、5つのチームに分かれて活動を行った。第14回目には、吹田市役所にて最終成果発表会を実施した。

#### 最終発表会の様子 （第2会場・ 健康まちづくり室）



#### 最終発表会の様子 （第1会場・ 選挙管理委員会事務局）



#### フィールドワークで行った 投票所の設置と動画撮影



### 活動の成果

- ▶▶最終成果発表会に参加された職員方から、総合評価10点中「7.18」～「8.25」と高い評価を得た。
- ▶▶フィールドワークで制作された選挙啓発の動画や学生の提案内容の編集動画が、市のYouTubeで公開された。
- ▶▶学生からの提案内容の一部が事業化され、吹田市HP「二十歳を祝う式典のポータルサイト」で掲載された。

### 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶提案するところで授業が終わるため、事業化・実装するところまで進めたい。
- ▶▶教育・人材育成分野とはぜひ連携していきたい。
- ▶▶産学官連携型の全学科目が非常に少ないため、もっと増やす必要がある。

#### 教育推進部 教授 山田 剛史 Yamada Tsuyoshi



大阪市生まれ。神戸大学大学院博士後期課程修了後、島根大学講師・准教授、愛媛大学准教授、京都大学准教授を経て、2020年10月より現職。専門は高等教育開発・青年心理学。学校（子ども）から社会（大人）へと円滑に移行し、個人と社会のウェルビーイングを高めるための学校教育が研究テーマ。

詳細は [yamatuyo.com](http://yamatuyo.com) にて。



### 連携先からの一言

「政府関係者と一緒に課題を遂行できる非常に良い機会である」「まだ社会に出ていない大学生だけが感じられる（出来る）、発信力や着眼点を教えて頂ける場はとても貴重」「市と大学の双方の利益になる」「行政が本気ならば自分たちから出ないアイデアを使って新しい事業や既存事業の見直しをはかれる」など  
(吹田市職員)

# 児童の交通安全意識向上を目指す 通学路巻き看板づくりプロジェクト

#通学路  
#交通安全  
#巻き看板

## DATA

### 主な連携先・メンバー

八尾市政策企画部

### 活動地域

大阪府八尾市

### 活動期間

2024年5月～2025年3月

### 活動資金

八尾市



八尾市及びJAF関係者向けにプロジェクト案を発表

## 目的

通学路での交通事故が相次ぐ中、電柱に設置する巻き看板のデザインを工夫し、子どもと運転者の双方の交通安全に対する意識の啓発を促し、通学路の子どもの安全を確保すること。

## 活動内容

2024年

5月～6月 通学路における児童の交通事故に関する状況を把握し、通学路の安全対策に関する先行研究や先進事例を収集・分析。

7月 八尾市で通学路の現地調査。

8月 現地調査結果を踏まえ、大人向け巻き看板のアンケートと、子ども向け交通標識認知向上ワークショップを考案・準備。

9月 アリオ八尾で開催された「交通安全 市民の集い」に参加し、子ども向けの交通標識塗り絵ワークショップと保護者向けのアンケートを実施。

10月 ワークショップとアンケートの結果を分析し、通学路を利用する児童のためのワークショップを準備。

## 連携にいたる経緯

八尾市政策企画部から本学地域連携センターに連携の打診があり、同センターからの相談を受けたことがきっかけ。

11月 八尾市安中青少年会館で小学校低学年の児童を対象に「巻き看板ワークショップ」を開催。

12月 本学地域連携センター主催く地域で活動する若い力>奨励賞のプレゼンテーション審査会で、学生が活動内容や成果を発表。

2025年

1月～3月 通学路巻き看板の新しいデザインを考案し、八尾市に提案。

八尾市に提案した巻き看板のデザイン



アリオ八尾でのワークショップの様子



八尾市安中青少年会館でのワークショップの様子



## 活動の成果

- ≫通学路に潜む危険性を小学生や未就学児に認識してもらうことができた。
- ≫子どもたちに創造の場を提供することができた。
- ≫活動に関わった学生たちの企画力、コミュニケーション力が向上した。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫引き続き八尾市と連携し、地域貢献のためにメディア専攻の学生ならではの力を活かす。
- ≫プロジェクトを通じて得た知見を、全国の通学路巻き看板のデザインに活かせるとうれしい。

## 連携先からの一言

通学路の安全について、ゼロから考えるのは苦労したと察しますが、公共施設・商業施設でのワークショップやアンケートを通じて、自分たちが考える通学路の安全標識のイメージが見えてきたように思います。また、メンバー間の仲が良い感じがすごく印象的でした！

(八尾市行政経営改革課)

## 社会学部 教授 劉 雪雁 Liu Xueyan



専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

劉ゼミホームページ→





# ヤマ・サトとマチをつなぐメディアづくり ～農山村における地域資源の発掘・活用と関係人口の創出～

#地域資源  
#関係人口  
#音風景

## DATA

### 主な連携先・メンバー

NPO 法人愛のまちエコ倶楽部／音雨音木工所／箕川未来協議会

### 活動地域

滋賀県東近江市愛東地区・奥永源寺地区（ヤマ・サト側）  
／大阪府吹田市（マチ側）

### 活動期間

2022年6月～継続中

### 活動資金

地域連携活動に対する補助事業



「つながる市」の様子

## 目的

農山村地域の課題解決をみすえ、「ヤマとマチとをつなぐメディアづくり」というコンセプトを軸に、地域の主体と連携しながら交流・関係人口創出のための調査・実践を行う。

## 活動内容

2023年度までの試作品の開発や展示会等での経験をふまえ、木製フードスタンドの販売を実現させた。具体的には、無印良品トナリエ南千里アネックス店で開催された「つながる市」（2024年7月27日・28日開催）に出店し販売を成功させた。販売にむけて、プロジェクト説明用と商品説明用のパンフレットとポスターを作成した。また、商品化するにあたり、パッケージおよびタグ等のデザインをつくりあげた。（商品名「つなぐフードスタンド～木愛～」）

ヤマへの直接的なアプローチとしては、山間部の集落において音風景調査を昨年からの実施してきた。具体的には、夏から秋、冬にむけて

## 連携にいたる経緯

東近江市愛東地区にて愛のまちエコ倶楽部の協力のもと、2022年6月より地域（サト）の木職人と学生（マチ）のコラボによる木製品（ヤマの資源）の開発を開始。2023年度は試作品をもとに市場調査や展示会への出展を行い、山村での音風景調査による地域文化の掘り起こしを開始し、2024年度の活動へとつながった。

の季節の変化を軸として、住民への地域の音風景の記憶を掘り下げるヒヤリングと、実際の音環境の観察・録音を行ったうえで、「サウンドマップ」を作成し、地元へ還元した。

上記活動をより円滑にし、さらに連携を強めるために、愛東地区（サト）での農作業のサポートや、奥永源寺地区（ヤマ）での清掃活動等の地域行事への参加・協力などにも積極的に取り組んだ。

### 大学での サウンドマップ作成風景



音風景調査



### 「つながる市」での 販売の様子



## 活動の成果

- ▶▶ 地域資源を活用した木製製品を開発し、販売を実現させた。
- ▶▶ 音風景の観点から山村の生活環境文化を掘り起こし、可視化した。
- ▶▶ マチの学生が、ヤマ・サトの活動に参加し、相互の連携を強めた。

## 連携先からの一言

学生のみなさんに度々足を運んでもらい、実際に体を動かしながら、外の視点や若い視点で地域へのアイデアもいただいています。その学びと実践は、同時に地域側の活力や新たな取組みのヒントにも繋がっています。

（NPO 法人愛のまちエコ倶楽部）

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 大学や販売事業者との連携を強化し、木製製品販売のビジネスモデル化をめざす。
- ▶▶ 大学・学生のヤマ・サトのアクターとの連携継続のための仕組みをつくる。

### 社会学部 教授 大門 信也 Daimon Shinya



専門は環境社会学。地域の記憶の掘り起こしや、ヒト・モノ・カネの循環等の切り口から、中山間地域と都市部をつなぐ実践に、学生たちと取り組んでいる。



# スワンをβ本町橋のシンボルにするプロジェクト

#スワンボート  
#β本町橋  
#クラウドファンディング

## DATA

**主な連携先・メンバー**  
一般社団法人水辺ラボ（β本町橋の企画運営）

**活動地域**  
大阪府大阪市東横堀川界限

**活動期間**  
2024年5月～2025年4月

**活動資金**  
なし



スワンボートの修理作業の参加と取材

## 目的

β本町橋で引き取られた壊れた国産スワンボートを修繕し、東横堀川や水都大阪のマスコットとしてよみがえらせるためのPR活動。

## 活動内容

2024年

5月 β本町橋の関係者とプロジェクトについて打ち合わせ。

6月～ 毎月2日に月刊新聞「マンスリーすわん」を配信し、「スワン再生プロジェクト」とスワンにまつわるさまざまな情報を発信。

7月～8月 東横堀川界限の取材、地域のイベント参加、β本町橋で子ども向けスワン塗り絵ワークショップを開催。

10月 水の都パビリオンで「スワン再生のクラウドファンディング」をPR。

## 連携にいたる経緯

2021年度に展開した『「水都大阪」の魅力の再発見、近場で非日常を楽しむ～東横堀川PRプロジェクト』で、β本町橋と連携したことをきっかけに、「スワン再生プロジェクト」に加わるようになった。

11月～12月 スワンボートの修理作業の参加と取材。

2025年

1月 スワンボートの修理作業の参加と取材。

2月 水都大阪アカデミアでプロジェクトについて発表。

4月 月刊新聞「マンスリーすわん」最終号を配信。

月刊新聞「マンスリーすわん」の詳細はQRより→



β本町橋で行われた塗り絵ワークショップの様子



## 活動の成果

- ≫ 「スワン再生のクラウドファンディング」の目標金額達成に貢献した。
- ≫ 地域内外に向けて水辺の魅力を伝えることができ、東横堀川地域の方々との交流も深められた。
- ≫ 活動に関わった学生たちの取材力、コミュニケーション力、情報発信力が向上した。

月刊新聞「マンスリーすわん」



水の都パビリオンで「スワン再生のクラウドファンディング」をPR



## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 引き続き学生目線で水の都・大阪の魅力を発信していく。
- ≫ プロジェクト終了後も、学生たちが継続的に活動地域と関わる事ができる環境を作っていく。

## 連携先からの一言

クラウドファンディングも修理も沢山の応援が必要なプロジェクト。チームの皆さんの前向きさと明るさがあったからこそ、たくさんの支援に繋がりました。

（一般社団法人水辺ラボ 廣井真由美氏）

社会学部 教授 劉 雪雁 Liu Xueyan



専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

劉ゼミホームページ→



# 枚方の魅力を“まるっと”楽しむスタンプラリー

# 枚方  
# ドライブ  
# スタンプラリー

## DATA

### 主な連携先・メンバー

一般社団法人日本自動車連盟（JAF）大阪支部／枚方文化観光協会

### 活動地域

大阪府枚方市

### 活動期間

2024年5月～2025年4月

### 活動資金

JAF 大阪支部



JAF大阪支部、枚方文化観光協会の関係者と打ち合わせ

## 目的

食べ物、景色からスポーツ、歴史が体験できるスポットまで、枚方の知られざる魅力を楽しむスタンプラリーを作成すること。

## 連携にいたる経緯

2020年度から本学とJAF大阪支部の産学連携活動として、『JAFMate』やweb媒体を用いて大阪をはじめ関西圏各地域の魅力を紹介する誌面を作成してきた経験を踏まえ、「JAFナビ」のスタンプラリーコーナーを企画することになった。

## 活動内容

2024年

5月～6月 JAF大阪支部、枚方市役所、枚方文化観光協会の関係者と打ち合わせを行い、紹介スポットを選定。

7月～9月 枚方現地調査と取材。秋のドライブコースに関する記事作成、動画編集。

10月 秋のドライブコース公開。大阪市内と枚方を結ぶ航路を運営する船会社にチラシとポスターを配架。

11月～12月 春のドライブコースに関する記事作成、動画編集。

2025年

4月 春のドライブコース公開。大阪市内と枚方を結ぶ航路を運営する船会社にチラシとポスターを配架。

「まるっとひらかたスタンプラリー」秋コースのポスター



ポスター用の集合写真撮影



ひらかたパークでの取材風景

## 活動の成果

- ≫ 枚方の魅力を地域内外の方々に発信することができた。
- ≫ 活動に関わった学生たちの取材力、コミュニケーション力、情報発信力が向上した。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 引き続きJAF大阪支部とコラボし、学生目線で関西地域の魅力を発信していく。
- ≫ フィールドワーク、取材、聞き取り、映像制作のプロセスや方法を再検討し、その経験や教訓を今後の活動に活かす。
- ≫ プロジェクト終了後も、学生たちが継続的に活動地域と関わるができる環境を作っていく。

## 連携先からの一言

枚方の魅力を伝えるコース制作にご協力いただき、誠にありがとうございました。皆さんの取組みにより素晴らしいコースが完成し、JAFはもちろん、枚方市にも大変満足いただけました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

(JAF大阪支部 上辻雄大氏)

## 社会学部 教授 劉 雪雁 Liu Xueyan



専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

劉ゼミホームページ→



# 福知山産お茶の知名度向上プロジェクト

#お茶  
#福知山  
#給水スポット

## DATA

### 主な連携先・メンバー

福知山公立大学地域経営学部 谷口知弘研究室／京都府中丹広域振興局

### 活動地域

京都府福知山市

### 活動期間

2024年5月～2025年3月

### 活動資金

地域連携活動に対する補助事業



福知山産のお茶を扱っている店での撮影

## 目的

福知山産のお茶の知名度を高め、地域の魅力向上につなげる。また、給水スポットの横で福知山産のお茶を使用した水出しティーパックを販売することを提案し、環境保護にも寄与すること。

## 活動内容

2024年

5月～7月 日本におけるお茶の消費動向や特徴を把握するための資料収集・分析。また、福知山公立大学の谷口知弘先生、日本茶インストラクターの赤井貴恵氏、山城屋茶舗の豊島永子氏とZoom会議を行い、福知山産のお茶の販売に関する現状を把握。

8月 福知山現地調査と取材。

9月～10月 福知山産のお茶関連スポットを掲載したチラシと知名度をPRするポスターを作成。

## 連携にいたる経緯

劉ゼミではこれまで、地域活性化と魅力発信に焦点を当てた数多くのプロジェクトを実施してきた。この経験を踏まえ、福知山市出身の学生が地元の魅力を発信する新たな取組みを提案したことがきっかけ。

- 11月 あやべ・日東精工アリーナで開催された「中丹 OCHA EXPO」に出展し、給水スポット向けの水出しティーパックのニーズを調査。
- 12月 撮影したPR動画の編集とウェブサイトの構築。
- 2025年
- 1月～3月 福知山産のお茶関連スポットを掲載したチラシとポスター、ウェブサイトが完成。チラシとポスターを各施設に配架。

福知山公立大学地域経営学部  
谷口知弘先生へインタビュー



福知山のお茶関連スポットの紹介ポスターとウェブサイトの紹介



「中丹 OCHA EXPO」での出展ブース



## 活動の成果

- ≫ 福知山産のお茶の魅力を地域内外の方々に発信することができた。
- ≫ 環境負荷の軽減につながる給水スポット向けの水出しティーパック販売の提案を新たに行うことができた。
- ≫ 活動に関わった学生たちの取材力、コミュニケーション力、情報発信力が向上した。

## 連携先からの一言

ふるさとの埋もれし特産品「お茶」に価値を見出し、ゼミ活で取り組みたいとの熱い想い。そして、その情熱とチーム力が地域の関係者の心を動かし、専門家に事業者、京都府を巻き込んだコラボに結びついたと思います。感服です。

(福知山公立大学教授 谷口知弘氏)

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 2025年に開催される「きょうとまるごとお茶の博覧会」(京都府中丹広域振興局)に出展する。
- ≫ 山城屋茶舗とコラボしたパッケージのデザイン、給水スポット向けの水出しティーパックを考案する。

## 社会学部 教授 劉 雪雁 Liu Xueyan



専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

劉ゼミホームページ→



# 十三デザインプロジェクト

# 地域ブランディング  
# まち歩きの仕事  
# まち歩き型ストーリーリーダー

## DATA

### 主な連携先・メンバー

公益財団法人都市活力研究所／総合調査設計株式会社／  
NPO 法人淀川アートネット／株式会社ウエルビーイング  
阪急阪神

### 活動地域

阪急十三駅周辺

### 活動期間

2022 年度～ 2023 年度

### 活動資金

学外共同研究費（都市活力研究所）



淀壁のフィールドワークの様子

## 目的

十三におけるブランド資産を発掘・整理し、現代における十三での楽しみ方を積極的に発信していくことで、同エリアのブランド・イメージを変えるための一助となる活動を行う。

## 活動内容

活動は三段階で行われた。第一段階は、十三のブランド・イメージに関する調査である。大学生の十三に関するイメージを言語化することによって、同エリアのブランド・イメージの現状の確認や課題を探った。第二段階は、十三のブランド資産の発掘である。十三でのフィールドワークを通して、十三におけるブランド資産の発掘と整理を行った。具体的には淀壁や十三の商店街の視察のほか、十三で様々なプロジェクトに取り組むキーパーソンや十三の新たなイメージをつくるであろう店舗などへのヒアリング調査を行った。第三段階は、十三に関するブランド・イメージの拡散に関する実証実験である。徳山研究室では調査結果を元に Instagram を用いた新たな十三イメージの拡散を行い、その成果について十三で報告会を行った。

## 連携にいたる経緯

都市活力研究所が行っていた「十三のまちの将来像に関する調査・研究」に教員の徳山が関わったことから、その後の展開として、十三での学生によるフィールドワークを提案され、過去にも地域連携で実績のあった松下研究室の協力を得て実施することとなった。

行った。松下研究室では、街歩き型ストーリーリーダーの開発によって、十三アートフェスと連動したまち歩きの仕事づくりを行い、学術的成果としてもまとめた。

### Instagramでの投稿



十三での報告会の様子

### TokoToko Banashi

・物語内のアートや店にリアルタイムで

・とどこ歩いて小説が読める

・主人公のアートを味わった

喜怒哀楽を体験しよう



ストーリーリーダーアプリ「TokoToko Banashi」

## 連携先からの一言

アート、飲食、オタクの3つのテーマのペルソナ設定での店舗等の選択やインスタ画面の作り方、ストーリーリーダーの物語と仕組みなど、いずれも発想や出来栄が良く、今後の展開や発展に期待できる取組みでした。（総合調査設計株式会社 笹井浩氏）

## 活動の成果

- ▶▶ 十三に学生たちが入り込んで地域資産を発掘し、新たなブランド・イメージの発信に取り組むことができた。
- ▶▶ 松下研究室のスキルを用いて街歩きの仕事となるアプリを作成し、イベントで展開した。
- ▶▶ ストーリーリーダーに関して、学術的成果として学術論文を投稿することができた。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 十三アートフェスにおいて、街歩き型ストーリーリーダーの継続的な展開を行う。
- ▶▶ 他の地域でもブランド価値を高めていくための地域デザイン・プロジェクトを展開する。
- ▶▶ 今回の活動を踏まえ、総合情報学部らしい社会貢献のあり方を検討する。

総合情報学部 教授 徳山 美津恵 Tokuyama Mitsue



専門はマーケティング、ブランド論。地域ブランドの研究を継続する中で、自治体の各種委員を歴任するだけでなく、ゼミ生とともに地域活性化プロジェクトに取り組む。



総合情報学部 教授 松下 光範 Matsushita Mitsunori



専門はインタラクティブシステムデザイン。様々な情報処理システムの機能性の高さを使いやすさとを両立する方法論について研究を行っている。



# 南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業(咲っく南花台) / 南花台小・中学校クラブハウス塗装ワークショッププロジェクト

# 大学連携型地域再編

# まちづくり

# 自分たちのまちは自分たちでつくる

## DATA

### 主な連携先・メンバー

河内長野市 / 河内長野市教育委員会 / 河内長野市立南花台小学校・中学校 / さくら建築 / 地域住民 / 一般社団法人カンデ 他

### 活動地域

大阪府河内長野市南花台

### 活動期間

2014年度～継続中(本プロジェクトは2024年度実施)

### 活動資金

河内長野市受託研究 / 南花台小・中学校塗装及び塗装イベント運営費



こどもたちのアイデアで普段使わないようなビビットカラーで塗装する

## 目的

多世代交流、新たなコミュニティ形成、地域への愛着づくりなどを目的として、本取組みを実施した。

## 活動内容

2024年度、施設一体型小中一貫教育推進校となり、施設整備が進んでいる南花台小・中学校において、小・中学校校長および市・教育委員会より、こどもたちと一緒に施設整備ができるような取組みの企画について、咲っく南花台プロジェクトと連携ができないかと打診があった。そこで、多世代交流、新たなコミュニティ形成、地域への愛着づくりを目的として、南花台小・中学校のこどもたちが、自身の通う学校のクラブハウスの外壁塗装デザインから塗装までを地域住民と

## 連携にいたる経緯

急速な少子高齢化が進む南花台地域において、関西大学団地再編プロジェクトでの取組みを契機に、大学連携地域再編プロジェクト「咲っく南花台」を継続的に実施している。今回、河内長野市および教育委員会より本取組みや活動との連携を図りたいと打診があり、企画実施に至った。

共に体験するワークショップを実施した。外壁塗装デザインにおいては、こどもたちの自由な発想を促すよう国内外の様々な建築物の塗装事例を見たうえで、色鉛筆で図面に塗装デザインを描き込み、それらを模型化し、全員で意見交換を行った。塗装ワークショップの実施にあたっては、プロの塗装職人からレクチャーを受け、できるだけこどもたちが主体的に作業できるように、大学生や保護者、地域住民がサポートしながら、こどもたち自ら塗装作業を行った。

こどもたちがみんな  
塗装デザインを考える



プロの職人から  
塗り方のレクチャーを受ける



自由な発想で  
こどもたちが自ら考える



## 活動の成果

- ▶▶ 地域の小・中学校との連携事例ができ、継続的な関係構築に向けた動きのきっかけとなった。
- ▶▶ 地域内での多世代交流機会の創出となった。
- ▶▶ 新たなものづくりコミュニティの形成につながった。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 小・中学校や教育委員会とのより密な連携。
- ▶▶ 地域のこどもたちとの継続的な活動実施のための仕組みの構築。
- ▶▶ おおさか河内材活用に向けた森林組合や近隣施設との連携。

環境都市工学部 教授 大影 佳史 Okage Yoshifumi



専門は環境デザイン・建築計画、公共空間や都市景観等、人間の生活環境を対象に、調査/分析に基づく研究から計画/設計。近年はプレーパークなど子どもの遊び環境にも携わる。



先端科学技術推進機構 客員研究員 関谷 大志朗 Sekiya Taishiro

関西大学建築学科卒、同大学院修了。大学・行政・地域など多様な主体による協働型まちづくり活動に取り組み、現在は河内長野市南花台をフィールドに活動中。一般社団法人カンデ所属。



# 吹田プロジェクト 2024～募金と交流で築く地域と心の輪～

# 地域福祉  
# 赤い羽根共同募金  
# 多世代交流

## DATA

### 主な連携先・メンバー

吹田市社会福祉協議会

### 活動地域

大阪府吹田市・吹田市千三地区

### 活動期間

2024 年度

### 活動資金

地区福祉委員会／社会福祉協議会／研究室資金



ビレッジマート吹田での演奏イベント

## 目的

吹田の地域福祉の知名度アップと活性化。地域福祉の理念や取り組みを幅広い世代に知ってもらい、理解を深めてもらうための工夫、新たな働きかけが必要だと考えた。

## 活動内容

大きく2つのテーマで活動を行った。

### 1) 赤い羽根共同募金の啓発活動

共同募金の目的や使われ方を、従来の福祉関係者以外にも広く知ってもらうための取り組みを行った。①募金に関するショート動画を2つ作成した。1つは子ども向けクイズ、2つ目は3か所の福祉施設への取材をもとにした活用先の紹介動画であり、ゼミのインスタグラム等で広報している。②吹田市内の駅前イベントで、チャリティー演奏会と募金活動を行った。本学内外の学生達による質の高い楽しい演奏に、

## 連携にいたる経緯

吹田市内（大学所在地）で地域と関わる実践的な学びをゼミで展開したいと考えていた担当教員が、吹田市の社会福祉協議会に連携の可能性を打診した。同会から積極的な回答を得て、連携プロジェクトの実施に至った。

幅広い年代の人々が足をとめて音楽と共同募金の話を聴いて頂く機会となった。

### 2) 世代間交流イベントの実施

吹田市内の千三地区で、多世代が交流できるイベントを開催した。地区福祉委員会や社会福祉協議会と打合せを重ねて、シニアと小学生がどちらも楽しめるようなゲームやクイズを考案し、当日は世代を交えたチーム対抗戦で大いに賑わった。



赤い羽根共同募金の紹介ブース



賑やかだった千三地区でのイベント

## 多世代交流イベントのチラシ



## 活動の成果

- ▶▶ 新たな場、新たな対象向けの共同募金啓発を行うことができた。
- ▶▶ 地域の中で多世代のナナメの関係構築の一つのきっかけとなった。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 今回のような地域福祉に関わる活動の成果、評価のあり方。
- ▶▶ 地域での子ども若者の活動、参画に貢献できる形での展開。

社会学部 教授 吉岡 洋子 Yoshioka Yoko



ゼミのテーマは「社会福祉をローカルまたグローバルに考える」。地域福祉、また海外の子ども家庭福祉等の研究を通して、誰もがつながり支え合える福祉社会を探求している。



# 若狭高等学校と関西大学の高大連携による共修教育の実践 ～地元学と対話によるウェルビーイング教育の推進～

# 高大連携  
# ウェルビーイング教育

## DATA

### 主な連携先・メンバー

福井県立若狭高等学校 海洋科学科

### 活動地域

福井県小浜市若狭地域

### 活動期間

2021 年度～継続中

### 活動資金

地域連携活動に対する補助事業／文部科学省マイスター・ハイスクール



まち歩きに同行してくれた地域の方の話を聞き書きする高校生

## 目的

魅力的で暮らしやすい若狭地域の若者を育成するため、若狭高等学校と本学の高大連携による共修教育によって、ウェルビーイング教育の方法とカリキュラムを開発すること。

## 連携にいたる経緯

若狭高等学校海洋科学科は、文科省のマイスター・ハイスクールの指定を受け、若狭地域をリードする人づくりのため、ウェルビーイングに焦点を当てた教育カリキュラム開発に取り組んできた。本事業の推進委員である草郷は、若狭高等学校の教員と協働でウェルビーイング教育の実現に努めてきた。その一環として、地元学を柱とする共修教育プログラムを行うこととなった。

## 活動内容

若狭高等学校と本学が地元学手法を取り入れた共創プログラムを3段階で実施した。まず、第1段階では、オンラインで高大共同の事前学習を実施し、地元学についての理解を深めた。第2段階では、高校3年生の2クラス合計59名、福井県立大学の学生2名、本学の学生7名がまち歩きを実施。高大混合の5グループに分かれ、地元住民である案内人と共に小浜市内の異なる地域コミュニティを訪れ、高校生・大学生の目線でそれぞれの地域の特徴や住民の暮らしについて調査した。まち歩きの後、グループ

ごとにまち歩きで撮影した写真を使用し、地域資源カードをまとめたり、住民へのインタビューシートをもとにして、地域の暮らしについて独自の絵地図にまとめた。最後に、全体発表を行い、小浜のまちの多様な魅力を掘り起こしていくことができた。第3段階では、グループ単位と個人単位の2つのレベルで、この高大共修プログラムからの学びについて振り返り、地元学から得られた知見をもとにして、若狭高等学校のウェルビーイング教育について考えた。また、若狭高等学校と教育連携関係にある、台湾基隆市立暖暖高級中学\*の生徒を交えて、基隆市と小浜市で地元学共修教育プログラムを実施。その結果、国際教育交流活動として位置づけられることとなった。

(※日本の高等学校普通科にあたる教育課程)



まち歩き中、庭仕事中的住民の方に声掛けをして話を伺う大学生と高校生のグループ

大学生のアドバイスをもらいながら、まち歩きで見つけた地域にあるものを絵地図に表現



## 活動の成果

- ▶▶ 高校生が個別インタビューによってウェルビーイングについての理解を深めることができた。
- ▶▶ 地元学により若狭地域の暮らしの価値を探究し、小浜市の暮らしについて深掘りできた。
- ▶▶ 国際教育連携活動の拡充に寄与することができた。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 若狭高等学校のウェルビーイング教育を展開する。
- ▶▶ 地元学の継続により、若狭地域のすべての地域コミュニティにあるものを掘り起こす。
- ▶▶ 若狭地域の自治体に働きかけて高大連携・地域連携で地元学を展開する。

## 連携先からの一言

若狭高等学校の生徒たちは、特別に用意された講師ではなく、一般住民の方々にインタビューすることで、この地域で生きる者にとっての幸せや生きがいについて、自分ごととして地域にどうつながり、関わっているのかを安心して深く考えることができていました。これまでの学校教育における社会との接続の仕方と異なるアプローチであり、生徒たちがより主体的に取り組んでいました。

(若狭高等学校 SSH 研究部部长 小坂康之氏)

## 社会学部 教授 草郷 孝好 Kusago Takayoshi



近代化や開発の意味を問い直し、ウェルビーイングを重視する持続可能な社会の構築に関する理論的研究と、地域レベルの当事者との協働型アクションリサーチに取り組んでいる。



# 男山地域まちづくり連携協定

# 外国語  
# 異文化  
# 多文化共生

## DATA

### 主な連携先・メンバー

京都府八幡市／独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）

### 活動地域

京都府八幡市

### 活動期間

2021 年度～継続中

### 活動資金

八幡市受託研究



リーフレット完成を喜びゼミ生たち

## 目的

グローバル化の進展に伴い外国人住民の数が増加する中で、日本人住民と外国人住民が互いの言語と文化を理解しながら共生できることを目標に活動している。

## 活動内容

異なる言語や文化的背景を持つ人が京都府八幡市においても増えつつあり、日本人と外国人住民との調和ある生活が大きな課題となっている。そこでは、外国人住民が日本の言語や文化を学ぶことだけではなく、日本人住民が多様な言語や文化への理解を深めることも重要となってくる。八幡市との連携に参加してからは、同市民に言語文化の多様性に馴染んでもらうことを目標として、ベトナムの言語と文化、英語の多様性、石清水八幡宮を英語で世界に発信することをテーマに

## 連携にいたる経緯

八幡市との協定により、本学 江川直樹名誉教授と環境都市工学部大影佳史教授が「住みたい、住み続けたい」まちづくりで多くの成果を上げていた。そこで、高橋ゼミの活動を通じて、言語・文化領域でも貢献したいと思い、連携に参加させていただいた。

活動してきた。イベントで取り上げたテーマを市民に幅広く理解していただくために、各活動内容を基盤としながら毎回リーフレットを作成している。リーフレットでは、多様な言語文化の内容を学術的な内容も交えながら簡潔にまとめ、外国語や異文化に興味を持ってもらうよう工夫した。最新のリーフレットは、石清水八幡宮を題材に英語学習とそのモチベーションなどをテーマとしている。



他大学との合同研究会で、いい発表ができました

これまで作成したリーフレット



最新版のリーフレット



## 活動の成果

- ▶▶ベトナムの言語や文化に親んでもらいたいというメッセージをリーフレットで発信。
- ▶▶世界の英語は多様であり、気楽に英語を使ってほしいというメッセージをリーフレットで発信。
- ▶▶身近な文化を深掘りして、英語で発信してもらいたいというメッセージをリーフレットで発信。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶英語を含めて、多様な言語・文化に楽しみながら触れるイベントの開催。
- ▶▶市民が外国の言語・文化に興味を持ち、自発的に活動するためのサポート。
- ▶▶複言語主義に関心がある自治体や団体などとの連携。

## 連携先からの一言

ご作成いただいているリーフレットは、市民の皆様が外国の言語や文化を気軽に手に取って学ぶことができるツールとして活用しており、市内の図書館ではすぐに無くなったこともあるなど、好評をいただいております。

(八幡市市民協働推進課)

## 外国語学部 教授 高橋 秀彰 Takahashi Hideaki



専門は社会言語学、言語政策論。移民を対象とする言語教育、グローバル化における機械翻訳の活用、国家・地域における言語政策などに関心を持っている。



# 尼崎市立歴史博物館における企画展 「ダンスホールのまち尼崎」の開催

#都市  
#歴史  
#博物館

## DATA

主な連携先・メンバー

尼崎市立歴史博物館

活動地域

兵庫県尼崎市

活動期間

2023年1月7日～3月26日

活動資金

なし



展示会場となった尼崎市立歴史博物館

## 目的

戦前期の小田・尼崎地区には阪神間モダニズム文化を代表する4つのダンスホールがあった。忘れられつつあるその存在を再評価するために企画展を開催した。

## 活動内容

同館の企画展示室では、およそ3か月にわたって企画展「ダンスホールのまち尼崎」を開催し、多くの市民、市外の方々に観覧していただくことができた。関連するイベントとして、ワンポイント講座やギャラリートークを行い、こちらにも多くの参加者があった。企画展の図録に代わるものとして、同館が発行する『地域史研究』122号に本企画展と同名の「ダンスホールのまち尼崎」という特集を組んだ。

また、往時の音楽も再現することになり、本学JAZZ研究会出身者らによる新パレスバンドが「パレス小唄」の演奏、録音を行った。この曲は展示会場でも流され、雰囲気づくりに一役を買った。

## 連携にいたる経緯

2010年秋に開催された「尼崎モダニズム展」で、永井が記念講演を行った。その後も尼崎市立歴史博物館のスタッフと情報交換をつづけるなかで本企画展の開催が計画され、当時のダンスホールの関係者に連絡をとりながら展示資料を収集し、実現にいたった。

ラジオ番組や新聞報道などとおして多くの市民に小田・尼崎地区のモダニズム文化について知っていただき、一方で講座や講演の参加者から新たな情報を得ることもできた。それらを含めたかたちで、2025年春には本学博物館で企画展「ジャズとダンスのニッポン」を開催する予定である。

詳細は「関大先生チャンネル」で情報発信中→



企画展のリーフレット



展示されたダンス・パレスの  
建築模型



戦前の小田・尼崎地区で  
刊行されていたダンス専門雑誌  
『ダンスファン』と『ダンス時代』



## 活動の成果

- ≫ 企画展の開催、関連する講演会・ギャラリートーク・ワンポイント講座の開催。
- ≫ 研究論文の発表（特集「ダンスホールのまち尼崎」『地域史研究』122号）。
- ≫ 尼崎市立歴史博物館での関連資料の収集、保管。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 関西の各自治体の博物館など、関連する資料収集拠点と連携していきたい。

## 連携先からの一言

永井良和教授に全面協力いただいた「ダンスホールのまち尼崎」展は、来館者数約1万1千人、研究紀要・グッズは完売との好成績を収め、マスコミにも多数報道され、知られざる本市の歴史の一面を広く周知できました。

(尼崎市立歴史博物館 桃谷和則氏)

社会学部 教授 永井 良和 Nagai Yoshikazu



専門は都市社会学・大衆文化史。日本のダンスホールの歴史と、ポピュラー音楽の普及について、長く研究している。



# 若者の視点からの民間スポーツクラブに対する集客企画の提案

#健康  
#スポーツ産業  
#生涯スポーツ

## DATA

主な連携先・メンバー  
株式会社関西テレビライフ／関西テレビ放送株式会社／  
阪急阪神不動産株式会社  
活動地域  
大阪府北部  
活動期間  
2021年度～継続中  
活動資金  
なし



調査対象のスポーツクラブ

## 目的

地域の健康と健幸（Well-being）を育むスポーツクラブ事業に焦点を当て、若者の視点からその活性化を提案すること。

## 活動内容

民間スポーツクラブの事業は、現在コロナ禍からの回復傾向にあるが、新規事業者の参入により競争が激化している。こうした事態に対応すべく、関西テレビライフ傘下のスポーツクラブを対象に、既存の常識にとらわれない若者の視点から集客企画を提案した。具体的には、学生による施設見学と参与観察、インストラクターを招聘しての体験

## 連携にいたる経緯

スポーツクラブ事業の新展開を検討されていた関西テレビライフと、スポーツ振興の現場での学修経験を求めている人間健康学部の西山ゼミが、阪急阪神不動産による仲介のおかげで出会い、活動を開始した。

学習、関連情報の収集などを行い、その分析結果を2022年度から2024年度まで通算4回、関西テレビライフの主要スタッフのほか関係者の前で発表した。その提案の一部は対象クラブによって既に採用されている。

ご講評を頂戴する



真剣な聴衆に感謝



発表に熱が入る



## 活動の成果

- ▶▶新規参入クラブが主に小規模なサービスを展開していることに対抗し、強みであるプール事業の再活性化を目指して、新たなアクティビティを提案した。
- ▶▶スポーツクラブは健康を維持するため運動をするところという既存概念を破り、年齢層別のニーズに合わせた社交の場としての機能を持たせる提案を行った。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶民間のスポーツクラブ事業の社会的価値を高めるため、少子高齢化に直面する地域社会の課題を直視しながら、さらなる集客企画や活動企画を考えたい。
- ▶▶スポーツクラブ事業の枠を超え、文化振興や社会貢献といった方面にもスポーツ活動を拡大、発展するための方策を学生たちと検討したい。

## 連携先からの一言

フィットネスクラブ業界はコロナ禍からまだ回復途上にあります。参入障壁の低さから様々な業態が生まれており、我々も対抗すべく日々苦慮しています。4回目の取組みとなりましたが、過去には実際に採用した事例もあります。今回は、Instagramの活用方法など若者ならではの提案や、業界の常識にない新たなプールの活用法などを提案してもらい、大変参考になりました。

(株式会社関西テレビライフ代表取締役社長)

## 人間健康学部 教授 西山 哲郎 Nishiyama Tetsuo



社会学をベースに、スポーツを含んだ身体活動を文化現象として捉え、それらに対する人々の感じ方や価値観の変動について研究している。



# 特定非営利活動法人 関西大学カイザーズ 総合型地域スポーツ・文化クラブ

#地域貢献  
#コミュニティ作り  
#健康で豊かな生活

## DATA

### 主な連携先・メンバー

地域住民・地区自治会・商店会・地元自治体／NPO 法人ママふあん関西／支援企業・団体／関西大学学生・教職員

### 活動地域

関西大学千里山キャンパスをはじめとする各キャンパス／大阪府吹田市をはじめとする関西圏 他

### 活動期間

2015 年度～継続中

### 活動資金

スクール事業収益（含会費）／その他賛同団体・企業からの支援



サッカースクール ハロウィンイベント2024

## 目的

関西大学の知財・人材・施設を活用した「スクール活動」と、大学と地域社会を結ぶ「イベント事業」を通じて、地域貢献活動を行い地域の活性化に寄与する。

## 活動内容

### 1 総合型地域スポーツ・文化クラブの運営

サッカー、アイスホッケー、チアダンス、体操、バスケットボール、テニス、卓球、総合スポーツの8スクールを開講し、関西大学KFSC（フィギュアスケート）を運営している。参加することもたちや保護者がクラブへの参加を契機に交流を深め、本法人の活動が地域コミュニティ形成の一助となることを目指す。



NPO 法人設立10周年  
記念セレモニーを終えて

## 連携にいたる経緯

本法人は、課外活動に取り組む学生が地域の子どもたちとスポーツを通じて交わることにより、「ともに学ぶ」ことを経験する。また他の競技への拡大と組織的対応の必要性を求め、関西大学の創立130周年記念事業として法人化され、2024年に設立10周年を迎えた。

### 2 大学をより身近に感じる「イベント」の実施

「イベント事業」として「まちFUNまつり in 関西大学2024」を開催。同時に設立10周年記念セレモニーを行った。同じ地域で活動する「NPO 法人ママふあん関西」と共催。本年は、恒例の体験型ワークショップや理科実験教室に加え、大阪・関西万博関連、地域防災啓発関連、NEW スポーツの提案イベントを実施した。また、関西大学と連携する自治体、地元商店会、地元企業の協力を得た。関西大学の職員スタッフの参加、課外活動団体のクラブ体験やブース出展、本法人のスクールからも参画した。当日は、地域住民を中心に7,500人の来場をいただき盛会に終えた。



まちFUNまつり  
in 関西大学2024  
ステージ風景・イベント風景



## 活動の成果

- ▶▶ 関西大学千里山キャンパスを、特に未就学児～生徒の皆さんに身近に感じてもらうことができた。
- ▶▶ 千里山キャンパスが所在する地域が「大学のあるまち」であることをアピールできた。
- ▶▶ 本法人の活動を通じて地域住民をはじめ地域社会との交流を創生できた。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 本法人の事業を通じて関西大学の知財・人材・施設に触れる機会をつくる。
- ▶▶ 次世代を担う子どもを対象とした事業と共に地域に求められる事業を開発する。
- ▶▶ 少子高齢化社会を意識した各種事業の展開に取り組む。

## 連携先からの一言

体験型ワークショップを展開するうえで、大学のキャンパスを会場に実施できることは、参加する子どもたちにとって、楽しく「学ぶ」環境として最適です。また、親子で楽しむイベントとしても大学キャンパスは安全な場所であることは重要です。（共催団体）

## 特定非営利活動法人 関西大学カイザーズ総合型地域スポーツ・文化クラブ (通称：関西大学カイザーズクラブ)



大学のスポーツ・文化活動を通じて、健やかで幸せに暮らす「健幸」づくりに貢献する。また、青少年の健全育成のため新たな文化を創造し、地域の活性化に寄与する。



# ①愛媛県愛南町「ミッチーのおみかん畑」との河内晩柑を使った商品開発・販売

## ②放置竹林対策活動への参加

## ③関西における商店街内「分散型ホテル」に関する調査研究

# 農産物を用いた商品開発  
# 地域活性化  
# 放置竹林問題

### DATA

#### 主な連携先・メンバー

①ミッチーのおみかん畑  
②おおぶ竹林循環プロジェクト「BUNKAI」（一般社団法人 BUN-KAI）／ワイズ不動産販売株式会社 地球環境貢献事業部

③SEKAI HOTEL Fuse／宿場町 HOTEL 講 大津百町

#### 活動地域

①愛媛県愛南町  
②大阪府高槻市／愛知県大府市  
③大阪府東大阪市／滋賀県大津市

#### 活動期間

2024 年度

#### 活動資金

いずれの活動もなし



ミッチーのおみかん畑との活動①

### 目的

基本的には、ゼミナールにおけるグループ研究との関連の中で連携等を進めている。各連携活動を通して、ゼミでの研究活動に実践面での検証や地域への貢献ができるように進めている。

### 活動内容

- ①柑橘類の河内晩柑を使って、若者を始めすべての世代が好む商品を開発し販売する。それを通じて愛媛県愛南町の地域活性化に寄与する。
- ②放置竹林問題への対応として、竹林での伐採活動へ参加し、その後、本学商学部4年次生が手掛ける竹炭チップの販売に協力した。
- ③SEKAI HOTEL Fuse への宿泊も兼ねて、分散型ホテル並びに商店街調査を実施した。

### 連携にいたる経緯

いずれの活動も、ゼミ生自らが研究活動のために協力を依頼した。

なお、ゼミでは他にも「伝統工芸品の現状と後継者育成に関する調査研究」や「自治体のアンテナショップ調査」、「アパレルメーカーの持続可能な生産・流通に関する調査研究」など、さまざまなプロジェクトに取り組んでいる。



ミッチーのおみかん畑との活動②



みやくもっせでの販売会



プレゼン大会後

### 活動の成果

- ≫現在、河内晩柑を使った具体的な商品開発の途上にある。その販路も事業者と想定しながら進めている。
- ≫京都市勧業館「みやこめっせ」で開催されたイベント「PASSION WORLD 2024」（2024年9月4日）において、竹炭チップやそれを用いた料理の販売会を実施。多くの販売により、訪れた多くの学生に放置竹林問題をアピールすることができた。
- ≫すべての活動は「アグリカルチャーコンペティション（アグコン）2024」（JA 全中協賛）にて研究発表をし、放置竹林問題に取り組んだチームは決勝大会で優秀賞（第2位）を受賞した。

### 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫放置竹林対策活動については、2年継続での取組みとなり、愛媛県愛南町での取組みも継続を視野に入れている。今後、他の活動領域も広げ、各取組みの継続を図っていきたい。
- ≫地域商業の現状や課題に対する調査研究をさらに進めていきたい。

### 連携先からの一言

2日間にわたります商品開発は楽しいこと、新しいことだけでなく、これからも関西大学佐々木ゼミの生徒さんとは良い関係を続けていけたらと心底おもっております。

（ミッチーのおみかん畑 HP「活動日記」2024.10.02「関西大学との共同開発」より）

### 経済学部 教授 佐々木 保幸 Sasaki Yasuyuki



日本とフランスの流通政策研究を専門としている。最近では商業（ボランティアチェーン）と協同組合の特質を併せ持ったフランス独自の商業の発展についても研究を進めている。



# 淡路島の隠れた魅力発見プロジェクト

# 伝統産業活性化  
# 観光振興  
# 観光マップ

## DATA

### 主な連携先・メンバー

一般社団法人淡路島観光協会／兵庫県線香協同組合／  
パナソニックサイクルテック株式会社

### 活動地域

兵庫県淡路市・洲本市・南あわじ市／大阪府柏原市

### 活動期間

2022年度～2023年度

### 活動資金

地域連携活動に対する補助事業



学生が作製したマップ

## 目的

経営学を学ぶ学生が地域との連携により、伝統産業の経営資源や地域の観光資源を調査研究し、その成果を観光マップや SNS で発信することで、伝統産業と観光産業の活性化を目指す。

## 活動内容

2022年度に本学の「地域連携活動に対する補助事業」の補助を受け、兵庫県線香協同組合、淡路島観光協会と情報交換を行い、淡路島の伝統産業である線香産業、そうめん産業、瓦産業の調査を行った。これらの情報をもとに、パナソニックサイクルテック株式会社からアドバイスを得ながら、サイクリングマップの作製に取り組んだ。

2023年度は、サイクリングマップの作製から伝統産業マップの作製に方針を変更し、調査を継続した。そうめん産業では、老舗企業の工場を訪問して生産工程を確認し、直営のそうめん専門店での試食調

## 連携にいたる経緯

上野ゼミでは伝統産業の活性化に取り組む過程で、兵庫県線香協同組合と連携をとってきた。その過程で地域の観光産業の活性化が課題として出てきたため、淡路島観光協会と連携し、伝統産業や観光産業の活性化に向けた観光マップの作製に取り組んだ。

査を実施した。また、瓦産業では工場を訪問し、生産工程の動画や伝統産業を伝えるクイズ動画を作製するとともに、鬼瓦を製造する企業を訪問し、職人に対してインタビュー調査を行った。線香産業では「パルシェ香りの館」を訪問し、お香作りの体験動画など伝統産業を紹介する動画の作製および、マップに掲載する情報を蓄積した。これらの情報や動画をもとに、伝統産業の魅力を伝える伝統産業マップを作製した。



そうめん工場見学の様子



クイズ動画撮影の様子



お香作り体験

## 活動の成果

- ▶▶ 淡路島観光マップの制作。
- ▶▶ 淡路島瓦産業の紹介動画の制作。
- ▶▶ 淡路島「パルシェ香りの館」の紹介動画の制作。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 伝統産業情報と観光情報の更新と正確性の確認。
- ▶▶ ホームページや SNS での情報発信。
- ▶▶ 連携先における伝統産業マップの設置・配布。

## 連携先からの一言

ゼミ活動が故に、現地での十分な視察・調査が出来ない中、WEB上の情報収集等も積極的に推進し、活動成果まで繋げることが出来てよかったです。興味を持ちやすい、学生ならではのクイズ形式も効果的でした。

(淡路島観光協会 CMO 高木俊光氏)

## 社会学部 教授 上野 恭裕 Ueno Yasuhiro



経営学が専門で、伝統産業やファミリービジネスの経営戦略を主に研究している。ゼミナールでは経営学を学びながら、地域の課題解決に向けたグループ研究を行っている。

上野ゼミホームページ→



# 伝統産業の魅力再発見事業 堺市の伝統産業におけるイノベーション創出プロジェクト

# 伝統産業  
# 新事業開発  
# イノベーション  
# 大阪府堺市

## DATA

### 主な連携先・メンバー

堺市産業振興局産業戦略部地域産業課／株式会社福井代表取締役 福井基成氏／株式会社ナカニ代表取締役 中尾雄二氏／株式会社奥野晴明堂代表取締役 奥野浩史氏

### 活動地域

大阪府堺市

### 活動期間

2020年度～継続中

### 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業



学園祭の模擬店にて新商品を販売

## 目的

経営学を学ぶ学生が企業と連携し、堺市の伝統産業の経営資源を活用した新事業開発、新製品開発を考えることにより、経営学の学習を進めるとともに、その成果をSNS等で発信し伝統産業の活性化をめざす。

## 活動内容

2020年度は堺の伝統産業に対する訪問聞き取り調査を行い、その成果をオンライン形式により発表した。2021年度には企業と連携してビジネスアイデアコンテストを開催し、2022年度はそのアイデアの事業化を企業とともに取り組み、「おみくじ線香」や「黒歴史燃やしたるさかい」などの新商品を開発し、神社や堺伝匠館で販売した。

## 連携にいたる経緯

社会学部の上野ゼミでは伝統産業の活性化に取り組んできた。2020年度から地域連携協定を結んでいる堺市と連携し、新事業開発による伝統産業の活性化事業、伝統産業の魅力再発見事業に取り組んできた。2024年度はさらに発展させた「堺市の伝統産業におけるイノベーション創出プロジェクト」に政策創造学部の今井ゼミと合同で取り組んでいる。

学生がデザインした  
手拭いをルクア大阪で販売



お線香の新商品「ほっ」



堺和包丁のアクセサリ



## 活動の成果

- ≫『学生活動成果報告会・講演会』の開催。
- ≫お線香の新商品の開発・販売。
- ≫和晒手拭の新デザインの考案と新商品の販売。
- ≫堺和包丁の端材を使ったアクセサリの制作。
- ≫堺和包丁の若手職人を紹介する動画づくり。
- ≫学園祭やフリーマーケットでの商品販売。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫さらなる新事業の実現に向けて企業との連携を継続する。
- ≫伝統産業のさらなる活性化に向けて新たなイベントを検討する。
- ≫学生の学習を深め、地域へ成果を還元するために、新たな仕組みづくりに挑戦する。

## 連携先からの一言

学生さんの柔らかい発想に触れるたびに、われわれ事業者も新たな気づきを得ることが出来ました。コラボレーションを通じて、堺の伝統産業にも新たなイノベーションを起こしていきたいと考えています。

(株式会社福井 福井基成氏)

## 社会学部 教授 上野 恭裕 Ueno Yasuhiro



経営学が専門で、伝統産業やファミリービジネスの経営戦略を主に研究している。ゼミナールでは経営学を学びながら、地域の課題解決に向けたグループ研究を行っている。

上野ゼミホームページ→



# 岸和田市観光客誘致に関する調査研究

# 観光産業活性化  
# 学生によるフィールドワーク

## DATA

主な連携先・メンバー  
岸和田市  
活動地域  
大阪府岸和田市  
活動期間  
2023年度～継続中  
活動資金  
岸和田市受託研究



「ラヂオきしわた」に出演

## 目的

観光資源を活用した魅力的な観光コンテンツの醸成と、情報発信の強化による新たな観光客誘致に関する調査研究を行うこと。また、学生がフィールドワークを通して、岸和田市の歴史に彩られた観光資源への理解を深め、英語運用能力を高めること。

## 活動内容

岸和田市の魅力を、だんじり祭に限らず幅広く発信するため、観光WEBサイト（日・英対応）とSNS（日・英）を活用して国内外に情報を発信している。これまでの地域連携事業では観光パンフレットを制作してきたが、WEBサイトの構築は新たな試みである。若年層に響くコンテンツとして、デジタルマップや雑誌風コラムを掲載予定であり、InstagramやTikTokといったSNSも活用している。短時間の

## 連携にいたる経緯

本学と岸和田市が、地域および大学の活性化を目的とした連携協力協定を2023年2月8日に締結したことを受け、受託研究として観光産業の活性化に取り組むことになった。

プロジェクトに参加してくれた  
中国からの留学生、劉さんと一緒に



企画案発表会の様子  
(2024年2月)



webサイトの  
デジタルマップイメージ



## 活動の成果

- ▶▶一年を通して魅力的な観光地としての岸和田市の認知度向上（国内外）。
- ▶▶岸和田市における観光客数の増加（日本人・インバウンド）。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶観光産業活性化のニーズを持つ新たな自治体との連携。
- ▶▶多文化共生社会の実現に向けて取り組む自治体との連携。

## 連携先からの一言

活動中、岸和田市の地域の方とのコミュニケーションを大切にし、岸和田市の良いところを見つけようという想いが強く伝わってきました。アイデアをしっかりと形にし、それを外部に向けて発信する力に、感心しました。

(岸和田市総合政策部企画課)

## 外国語学部 教授 井上 典子 Inoue Noriko



地域連携事業を通して、学生には、国際社会で通用する高い英語力・コミュニケーション力だけでなく、社会人と同じ土俵に立って仕事を進める力を養ってほしいと願っている。



# 関西大学嵐山インフォメーションデスク (KAID)

# インバウンド  
# インフォメーションデスク  
# 商品説明の翻訳

## DATA

### 主な連携先・メンバー

嵐山商店街会長 石川恵介氏 / 嵯峨商店街 加藤就一氏

### 活動地域

京都府京都市の京福電鉄嵐山駅前 嵐山商店街の通りの一角 (嵐山保勝会事務所前)

### 活動期間

2023 年度～継続中

### 活動資金

地域連携活動に対する補助事業 / 嵐山商店街からの補助 (備品等の購入)



デスクでの活動

## 目的

嵐山地区で激増する訪日観光客のインフォメーションデスクで、学生が案内をすることで、困っている観光客の役に立つと同時に、地域の PR や商店街の活性化に貢献する。

## 活動内容

京福電鉄嵐山駅前の嵐山保勝会事務所前の歩道に、テーブルと椅子を設置し、学生 2～3 名がデスクに立ち寄り観光客からの道順や、買い物や、食事などに関する質問に英語で答えている。口頭で説明するだけでなく、商店街から支給されている観光地図を配布したり、必要に応じて短い距離の場合は同行したりしている。新たに出た質問はそのつど記録し、エクセルに加筆し活動を行う学生全員で共有している。店舗の要請に応じて、翻訳も行った。開設したInstagram に活動

## 連携にいたる経緯

2022 年春より、京都市内の商店街で機械翻訳機の利用と言語のトラブルの調査を実施。「言語に堪能な人の仲介」が、もっとも望ましいとの報告があった。留学直後の本学の外国語学部の学生であれば、その要望に応えることができると考えデスクの開設に至った。

した日にはストーリーをあげ、地元の情報提供をしている。また人力車のえびす屋さんの協力を得て、地域の動画も作成した。

2024 年度は、新たに 6 月に開催された嵐山の「若鮎祭り」において、立ち寄り観光客に英語でイベントの説明を行った。また 9 月に開催された「嵐山秋花火」では、打ち上げ前や帰路の注意事項などを日本語、英語の二言語でアナウンスを行った。活動のポスターを作成したイラストを趣味とする学生が、周辺の商店が詳しく記載されているイラストマップを作成したので、2 月末より配布予定である。



質問に答える



花火大会でのアナウンス



えびす屋さんのご協力を得て Instagram をさらに充実

## 活動の成果

- ▶▶ 観光客への貢献：困っている観光客に情報提供をして役に立つことができた。
- ▶▶ 学生の学び：言語面のみならず、様々な角度から学びを得ることができた。
- ▶▶ 地域との交流：地域のイベントに案内役やアナウンス担当として参加し協力できた。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 課題：地域での活動の認知度がまだあまり高くないこと。
- ▶▶ 目標：デスクの活動以外に、イベントでの語学サポートの頻度を増やすこと。
- ▶▶ 提携希望先：通訳のできる人材を探しているレストランや公共施設など。

## 連携先からの一言

嵐山商店街の渡月橋の通りにたくさんの外国人観光客が訪れます。名所やお店、トイレ、バスの乗り方など、KAID の皆さんがニコニコと丁寧に対応いただいております。地域としてもほんとに感謝しております。

(嵐山商店街会長 石川恵介氏)

## 外国語学部 教授 高橋 絹子 Takahashi Kinuko



専門は応用言語学 (通訳研究)。大学教員になる前は通訳者。外務省招客のアテンド通訳をしていた際には、観光通訳も経験。趣味は中学生で始めた裏千家茶道 (高橋宗綱) と楽器の演奏。京都市在住。



# 地域公共交通のあり方について — 兵庫県朝来市を走る JR 播但線の利用促進を例に —

# 地域公共交通  
# JR 播但線  
# 利用促進

## DATA

**主な連携先・メンバー**  
朝来市都市整備部 都市政策課 大林厚之氏

**活動地域**  
JR 播但線 寺前駅～和田山駅間

**活動期間**  
2023 年度～継続中

**活動資金**  
なし



ラジオ大阪「あんぜん・あんしん・アンサンブル」に出演

## 目的

兵庫県朝来市を走る JR 播但線は、利用者減少により経営状態が圧迫され継続が困難な状況にある。そのため、播但線の利用促進について検討を行う。

## 連携にいたる経緯

ゼミ生主体で実施する公募論文コンテストにて「JR 播但線の利用促進」を研究テーマに設定し、朝来市に相談したところ、同市主催の「令和 5 年度朝来市地域公共交通ワークショップ」への参加を勧められた。

## 活動内容

2023 年 7 月に「令和 5 年度朝来市地域公共交通ワークショップ」に参加した。本ワークショップは、朝来市民から公共交通に対する意見や要望を聞き、市の新たな公共交通体系の確立に向けた方針決定を行うことを目的に毎年開催されている。私たちは、播但線の沿線自治体である朝来市民のみなさんと膝を突き合わせながら、公共交通の問題点と改善策について意見交換を行い、大変有意義なワークショップを行うことができた。前年度に続き 2024 年度もワークショップに参加し、本学学生と市民のみなさんと活発な意見交換を行ってきた。

2023 年 9 月には、ワークショップや沿線の視察で得たことを踏ま

え、地元の高校生を対象に播但線促進に関するアンケート調査を実施。調査では、将来の朝来市を担う若い世代の声を多数集めることができたため、結果を取りまとめ利用促進の提言を行っていった。

2023 年 11 月に、朝来市より依頼のあった播但線の電化工事に関する検討を行った。この内容が将来における播但線のあり方を検討する上での一助になれば幸いである。

そして、ワークショップやアンケート調査など朝来市における一連の活動について、ラジオ大阪「あんぜん・あんしん・アンサンブル」(2024 年 11 月 11 日放送)を通じて発信した。

「朝来市地域公共交通ワークショップ」での学生紹介の様子



「朝来市地域公共交通ワークショップ」での発表の様子



## 活動の成果

- ▶▶ 地元住民との意見交換。
- ▶▶ 若い世代の声を反映させた利用促進策の提言。
- ▶▶ 播但線の電化工事に関する検討結果の取りまとめ。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 交通・観光連携型事業による観光産業の再生・高付加価値化 (観光協会等)。
- ▶▶ 交通連合 (運輸連合) による地域交通の活性化 (鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者等)。

## 連携先からの一言

近年の公共交通を取り巻く環境は人口減少による利用者の減少に加え、担い手不足という大きな課題を抱えています。今後も大学生ならではの視点で、公共交通問題を研究テーマとして取り上げてもらえれば幸いです。

(朝来市都市整備部 都市政策課 大林厚之氏)

## 社会安全学部 教授 吉田 裕 Yoshida Yutaka



1995 年、西日本旅客鉄道株式会社 (JR 西日本) に入社。2006 年より同社安全研究所の研究者となり、災害心理や社会心理を研究。2023 年より関西大学社会安全学部の教員となる。

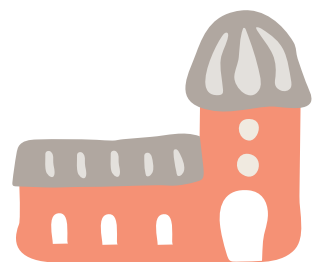






## 地域連携センターのご紹介

---



# 「ごちゃまぜ協働」による ソーシャル・アントレプレナーシップ育成プログラム (SEJumCoプログラム／通称:アボカドプログラム)

自己の可能性を最大限に引き出し、変化の中で活躍できる人へ

## 概要

地域連携センターの正課外プログラムとして、よりよい社会に向けて、能動的に動き、考動できるソーシャル・アントレプレナーシップ（社会企業家精神&行動様式）を学部・世代横断型（ごちゃまぜ）で、各種専門組織と協働して、育成する教育プログラムです。



## 学生の教育効果

学生からは「本当の課題、現状を知るには実際に足を運び直接話を聞く大切さを学べた」、「自分の悩みを社会課題につなげることで、問題の実情を知ることができた」などの感想があり、活動を通して、「ソーシャル・アントレプレナーシップ」を見つけ、それを糧に成長している様子が見えました。

### ▶ “ウチを学ぶ”

—リフレクションを通して自己を探求—

リフレクションといったグループ対話手法を用いて活動を継続することで、自己を探求して、自己の思いと社会とのつながりを深め、**内的世界を耕す力**を育みます。



### ▶ “ソトを学ぶ”

—地域のコミュニティと連携して社会のリアルな課題解決にチャレンジ—

地域の課題解決プロジェクトに実践的に取り組み、社会実装を目指すことで、よりよい社会に向けて自ら考動できる力を養い、**外的世界を耕す力**を育みます。

地域課題の解決に興味がある学生や、実践的な取組みに参加したい学生、自分探しをしている学生など 33 名が参加。



## キックオフ・ミーティング：6月27日

本プログラムの目的、実施方法等のレクチャーのほか、自己・他己紹介を行い、チーム活動の進め方や各地域の課題について、理解を深めました。



## リフレクションと現地でのフィールドワーク（6月27日～11月30日）

各チーム（課題）に分かれて、定期的リフレクション（グループ対話による振り返り）を行い、自分自身や活動内容を客観視して言語化することに取り組むとともに、地域住民、自治体・企業団体等へのインタビューやアンケート調査等を進めながら、課題の解決に向けた社会実装案の作成に取り組みました。



## 中間発表会：9月21日

課題の解決に向けて取り組んできた内容や進捗状況について、各チーム（課題）から中間報告を行いました。メンター（教員、学生、複業社会人）、コーディネーターからは、様々な意見や助言がなされました。



## 最終成果発表会：11月30日

自分たちの考えた社会実装案や活動から得た学びなどの成果について、各チーム（課題）から報告を行いました。参加した学生からは、「通常の学校生活では出会えなかった人、できなかったことが多くあり、もう少し早く参加できていたら後悔するほど充実した時間を過ごせた」「学生以外の様々な方がサポートに入ってくれたため、安心感もあり、思い切って行動することができた」などの感想がありました。



※本プログラムは、一般財団法人三菱みらい育成財団の2023年度助成事業「カテゴリー4：21世紀型教養教育プログラム」に採択され実施しています。

# <地域で活動する若い力>奨励賞

地域連携活動を通して学び、成長した学生チームを顕彰する事業として、2017年度より「<地域で活動する若い力>奨励賞」を設置しています。様々な地域との連携活動に取り組む中で、「活動計画の立案」「チームワークの築き方」「障壁への対応力」などを

実践的に身につけた学生たちが、本賞の書類・プレゼンテーション審査の過程で、自らの学び・成長を実感する機会となっています。プレゼンテーション審査会では、他チームの活動内容に触れ、学生同士が刺激し合う場ともなっています。

2024年度  
最優秀賞

竹で重要伝統的建造物群  
保存地区をデザインする活動  
ふくたけ



歴史的な町並みに調和する景観づくりや放置竹林問題対策など、地域住民や高校生との協働による持続可能な地域づくりを目指し、バス停の待合所の修景や地元の高校で飼育しているヤギ小屋を地域に開くプロジェクト。

2023年度  
最優秀賞

すいたんひろめ隊



吹田市シティプロモーション推進室と共創して、「吹田市民の市への愛着形成の促進」を目的とした「すいたん」関連の商品開発や販促活動等を行うプロジェクト。

## 参加団体

2017～2024年度で総勢88組（同一団体含む）が参加し、防災、限界集落、ICT教育、インバウンドなど多彩なテーマでの活動と学生の成長が報告されました。 ※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

## 2024

（最優秀賞 優秀賞 特別賞）

### 審査会出場

竹で重要伝統的建造物群保存地区をデザインする活動 ふくたけ / 岸和田市観光振興プロジェクト シン・キシワダ～三つの『シン』と関大×岸和田の新たな挑戦～ / ヤマサトマチをつなぐプロジェクト / 吹田プロジェクト2024 / 箕面六中ビバーチェ / 紀州備長炭の伝統技術の伝承と山づくりに関する活動 / 豊かな里山で子どもたちと自然体験 / 関関 COLORS / 児童の交通安全意識向上を目指す通学路巻き看板づくりプロジェクト / 畑を通じて浅香山をエディブル・タウンに

### 選考参加

伝統産業の魅力再発見事業 / 関西大学 総合情報学部 田中研究室 メタバース班

## 2023

### 審査会出場

すいたんひろめ隊 / 子どもの新しい遊び場 / 関関 COLORS / Let's Speak English! - 将来の自分へ「英語」という種を蒔いてみませんか? - / はる処～屋台を通して地域交流～ / 福井県立大野高等学校の総合学習における探究活動への関わり / 老松場（ろうしょうば）古墳群発掘調査体験

## 2022

### 審査会出場

堺～TSUNAGARU～アセアンプロジェクト / “災害情報は贈り物” 地域防災力向上プロジェクト / 見守り活動に関する絵本づくり / 協働で社会的価値を創造する「魔女プロジェクト」 / 新しい子供の遊び場 / 屋台を活用した地域の賑わいづくり / 八尾市情報発信コーナーにおける市民の関心を高める展示等の企画・運営 つよしずし / スターダスト河内 / 関関 COLORS / 地域住民と共同で、サステナブルファッションに取り組む / 新事業開発による伝統産業の活性化事業



## 学生's Voice

- 自分たちの活動を振り返るきっかけになり、とても有意義な期間だった。
- 他のチームの活動も非常に興味深く、勉強になる点が多かった。

## 観覧者's Voice

- 関西大学の学生がこんなに熱心に地域連携に取り組んでいることを今回初めて知った。
- 進行や展開、審査員の感想や質疑応答の流れにメリハリがあり、総じて緊張感のある審査会で有意義な時間であった。



# 関大みらい～ねフェスタ プロジェクト



## とは...

関西大学の新しいキャンパスとして、2023年10月に開設した「吹田みらいキャンパス」が地域に愛されるキャンパスとなることを目指し、キャンパス近隣にお住まいの方を対象としたイベントを企画・開催するプロジェクトです。

### < 取組みの理念 >

- ・吹田みらいキャンパスが地域のハブ拠点となり「大学が近隣地域に存在する」メリットを感じてもらうこと
- ・ステークホルダーから愛され頼られるようなかけがえのない存在として、近隣地域から認知されること

### < 行動指針 >

- 近隣住民に「関西大学をより身近に感じてもらう」施策を実施
- 地域との密接な連携による関大ファンの拡大
- キャンパス開設がもたらす相乗効果の地域への波及「まちの活性化」

### < 活動内容 >

関西大学をあらゆる側面から身近に感じてもらうべく、本学の多様なリソースを活用した様々なイベントを吹田みらいキャンパスで開催

吹田みらいキャンパス  
(吹田市山田南)



プロジェクトメンバーは、有志の事務職員を中心とした計27名。イベントごとにチームに分かれ、イベント内容の企画から当日運営までの全てを担当しました！



関大みらい～ねフェスタの活動については下記 Instagram や Peatix をご覧ください



## 関大みらい～ねフェスタの歩み

- 2023年11月 プロジェクト発足
- 12月 プロジェクトメンバー決定
- 2024年1月 企画発表会

2月



2月17日  
キックオフイベント  
はじめまして！  
関大吹田みらい  
キャンパス 体感  
DAY!!

5月



5月12日  
関大ウォークフェ  
スターみらいへの冒  
険ー

6月



6月16日  
らくらく運動  
FESTIVAL

7月



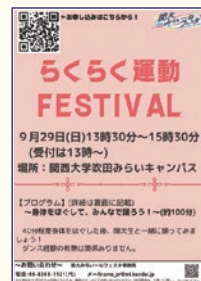
7月6日  
体験型スタンプラ  
ー「あつまれみら  
いっ子！  
笑顔の花咲く関大  
体験」

8月



8月30日  
寄って？関大  
「気持ち」の研究所  
ーココロを学んで  
乾杯しましょー

9月



9月29日  
らくらく運動  
FESTIVAL～身体  
をほぐして、みんな  
で踊ろう！～

## イベント当日までの流れ

### イベント内容の考案

ブレインストーミングなどを行い、近隣住民の皆様にご喜んでもいただけるイベントを企画



### 企画内容の発表

チームや個人で企画したイベント案を発表！



### 広報・開催準備

打ち合わせを重ね、当日に向けた準備を進めます



## イベント当日！

関大みらい～ねフェスタには、多くの近隣住民の皆様にご参加いただき、来場者は延べ1,800名を超えました！

ご来場いただいた皆様には「関大みらい～ねカード」に新キャンパス開設や関大みらい～ねフェスタへの応援メッセージなど、あたたかいお声をいただきました。

若い学生さんたちがこのキャンパスに来て地域が活性化することを期待しています！

自宅の近くにすてきなキャンパスができてうれしいです！関大のみらいに期待！！応援します！

関大ができたことで今まで以上に笑顔や活気あふれる地域になったらいいな♪

千里山キャンパスをはじめ、ますます地域がやさしい関大で！！

みらいに向かって共に歩んでいきましょう！協力できることを楽しみにしています！ありがとうございます！

関西大学の考え方やスタッフの方の権し方などで関西大学のイメージが変わりました。本当に良い大学ですね！

いろいろな人と交流できるキャンパスができて嬉しいです！



◀各イベント終了後には「みらい～ね通信」を発行！

イベントの様子などのレポートをInstagramにアップしています！

10月

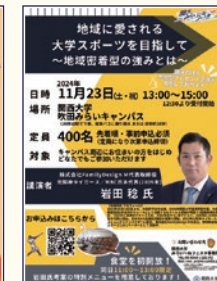
11月

12月

1月

2月

3月



10月14日  
自分をひらく、未来をひらく  
＜元ラグビー日本代表キャプテン 廣瀬俊朗氏によるスポーツの日 特別講演＞

10月27日  
秋のファミリーフェスティバル in 関大  
～ステージパフォーマンス & ハンドメイドを楽しもう～

11月23日  
地域に愛される大学スポーツを目指して～地域密着型の強みとは～元阪神タイガース岩田稔氏による講演会＞

12月21日  
出張みらい～ねフェスタ 第1弾  
関西大学×エア・ウォーター株式会社 笑顔あふれる！クリスマスフェスタ

1月26日  
出張みらい～ねフェスタ 第2弾  
公開講座「古墳時代の陵墓からみた倭国の成立」

2月15日  
出張みらい～ねフェスタ 第3弾  
Kandai 防災運動会  
～楽しみながら防災意識を高めよう～

3月20日  
関大みらい～ねフェスタ感謝祭  
“つながり”

# 地域連携協定一覧

※( )は協定締結日

## 福井県

大野市 (2018年6月13日)

## 京都府

城陽市 (2009年7月17日)

伏見酒造組合 (2009年12月2日)

八幡市・UR都市機構 (2013年10月25日)

## 兵庫県

丹波市 (2007年7月9日)

加西市 (2008年4月16日)

養父市 (2014年8月4日)

猪名川町 (2017年2月6日)

朝来市 (2022年7月1日)

## 岡山県

林原美術館 (2015年8月26日)

## 佐賀県

武雄市

(2007年11月26日)

## 岩手県

大槌町 (2012年7月10日)

## 奈良県

明日香村 (2006年2月7日)

葛城市 (2011年5月27日)

## 和歌山県

和歌山県・田辺市  
(2016年1月13日)

## 高知県

安芸市 (2016年6月24日)

## その他

りそな銀行 (2004年11月8日)

大阪シティ信用金庫  
(2008年8月1日)

池田泉州銀行 (2010年8月27日)

国立循環器病研究センター  
(2014年12月24日)

阪急電鉄 (2017年4月25日)

三井住友銀行 (2021年12月17日)

関西電力 (2022年7月13日)

Daigasエナジー (2022年7月27日)

エア・ウォーター (2022年10月11日)

モンベル (2023年5月30日)

## 大阪府

高槻市 (2004年7月14日)

吹田市 (2004年8月5日)

八尾市 (2005年12月22日)

天神橋筋商店連合会 (2007年11月29日)

堺市 (2008年8月7日)

池田市 (2008年9月10日)

大阪市北区役所 (2011年2月24日)

道頓堀商店会 (2013年1月16日)

摂津市 (2015年4月2日)

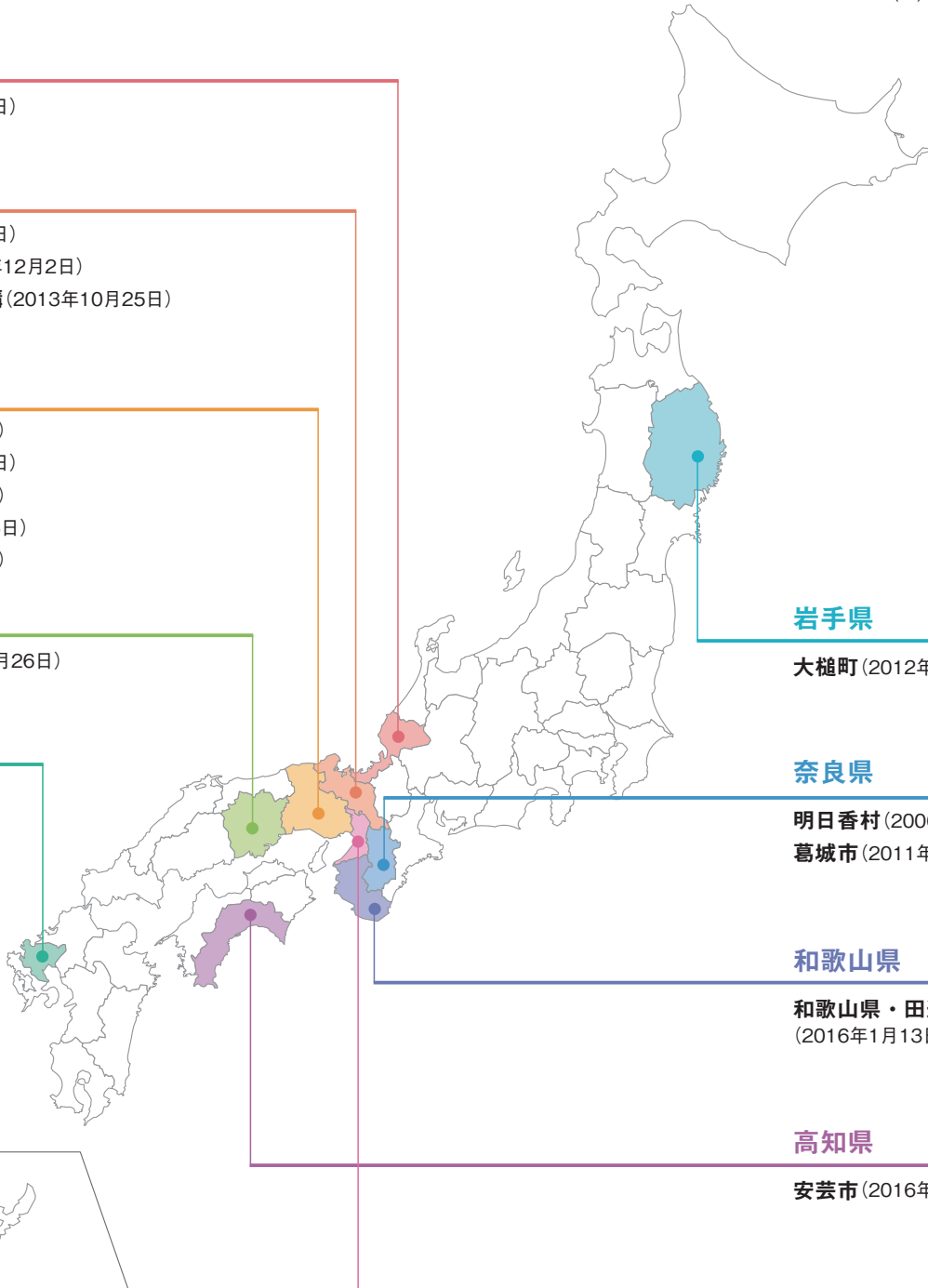
大阪府都市整備部 (2015年5月21日)

大阪府 (2018年1月10日)

河内長野市・UR都市機構  
(2018年2月20日)

河内長野市・コノミヤ (2018年12月21日)

岸和田市 (2023年2月8日)



## 地域連携活動の沿革

**2002年** 文部科学省は、中央教育審議会答申のなかで、「学生の時期に、社会や異文化の中で進んで様々な体験をし、自己や人生について考え、自分の生き方を切り開く力を身に付けることが重要であり、そのための機会を充実する必要がある」と提言しました。これは、ボランティアや海外留学などとともに、大学キャンパスの外で活動することが大学生の成長に通じるという新たな大学教育の在り方を示唆したものです。

**2004年** 関西大学は近隣都市 10 箇所の商工会議所と連携関係を構築しました。同年中に、キャンパスが設置されている吹田市、高槻市と連携協定を締結（2008年には堺市と締結。2010年に堺キャンパス開設）。以降、さまざまな自治体や企業等との地域連携活動を展開していきます。

**2005年** 社会連携推進本部を設置し、同組織のなかに地域連携センターを開設しました。

**2008年** 文部科学省は「平成 20 年度文部科学白書」のなかで「地域の発展における大学の役割」に言及し（第 1 部第 2 章）、「地域を支える専門人材の育成」「大学の知的資源の地域社会への還元」を提言しました。

**2008年** 社会連携推進本部を改組し、全学組織として社会連携部を開設しました。

**2014年** 『関西大学地域連携事例集 Vol. 1』を刊行しました。

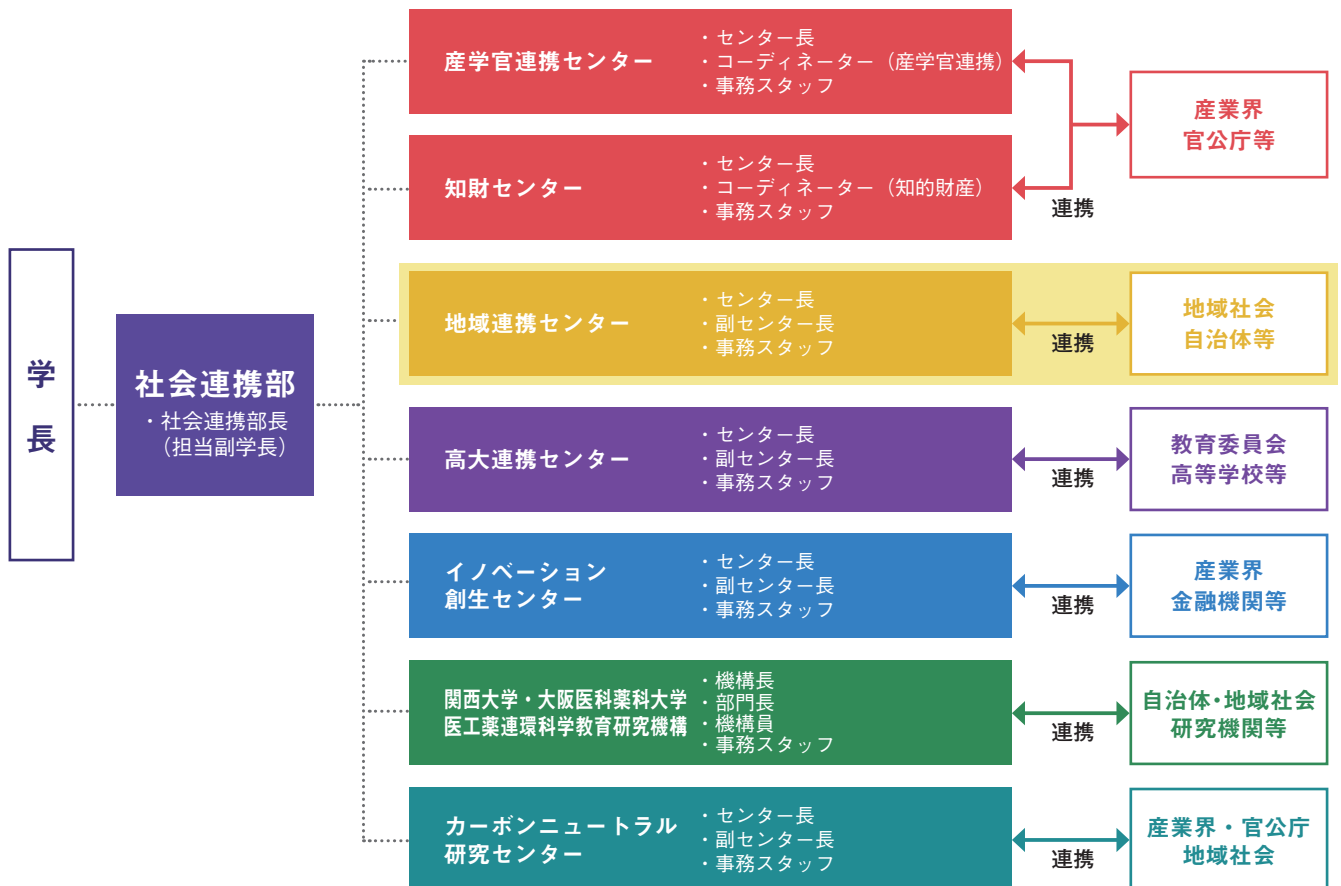
**2017年** 「〈地域で活動する若い力〉奨励賞」を設置しました。地域連携活動に従事する学生を顕彰するとともに、地域連携活動を大学の教育のなかに位置づけています。以降、毎年公開の審査会を開催しています。

**2019年** 関西大学の地域連携活動のコンセプトを内外に示す『地域で活動する若い力 関西大学の地域連携活動の目的と理念』を刊行しました。

**2022年** 「考動力」と「革新力」を学び続けるためのマインドセットをねらいとして、他部署と合同で授業に参画しました。（科目名：起業に学ぶ「考動力」入門）  
地域連携センターからは、自治体職員や、学生時代に取り組んだ地域連携活動を現在も仕事として続けている卒業生などを中心に、毎年 4 名の講師を選定し授業を提供しています。

**2023年** 学生がよりよい社会に向けて、自ら考動できるソーシャル・アントレプレナーシップ（社会企業家精神 & 行動様式）を育成する「SEJumCo プログラム」を実施しました。

## 地域連携センターの位置づけ（2025年3月現在）



# 地域連携事業に関する Q & A

**Q1** 「地域連携事業」に関心を持ちましたが、誰でも大学と連携することはできますか？

**A1** 連携事業の運営管理を継続的に行っていただくため、原則、自治体や企業等との連携を対象としています。

**Q2** 大学との連携や地域活性化について相談したいのですが。

**A2** 地域連携センターにご相談ください。場所と連絡先は本冊子の巻末にご案内しています。連携に必要な情報（課題、目的、連携内容、費用、役割分担等）についてお伺いいたします。

**Q3** 地域連携事業はどのような資金で運営されていますか？

**A3** 各種の競争的資金（各省庁の科学研究費、外部団体の補助金、本学の地域連携補助事業等）、企業からの受託研究、教員個人ごとに支給される個人研究費等を運用して進めており、活動の内容と規模に応じて、資金の規模も極めて少額のものから年間数百万円にいたるものまでさまざまです。**A8** のとおり、地域連携協定を結んでいる場合には、連携先である自治体等からの資金で運営するケースもあり、調査や事業実施のための交通費等の必要経費の拠出をお願いすることもあります。

**Q4** 自分たちの地域で検討している事業に協力可能な研究者を探すには、どうすればよいですか？

**A4** 地域連携センターにご相談ください。専任教員の研究分野・業績等は、「関西大学学術情報システム」(<https://kugakujo.kansai-u.ac.jp>) や「関大先生チャンネル」(<https://www.sensei-ch.rd.kansai-u.ac.jp>)でもご覧いただくことができます。

**Q5** 教員を紹介してもらっても、うまく連携して事業実施まで進められるか心配です。

**A5** 地域連携センターにて、連携までのコーディネートや不明な点のサポート等を行います。双方の合意に至らない場合は、相談の段階で中止しても構いません。

**Q6** 学生を地域に呼び込みたいのですが、どうすればよいですか？

**A6** 学生による地域連携活動については、教員の指導のもとでゼミ活動として参加する場合と、学生の自主的な組織として参加する場合の2種類があります。後者については、たとえば、商店街の活性化や自治体の行事の運営などの活動を行っていますが、その自治体が関西大学と地域連携協定を結んでいたことが出発点であることがほとんどです。地域連携は継続的な活動をめざしているため、一過的な企画で学生ボランティアを募るような場合には、学生センターが窓口となります。最適な窓口を紹介いたしますので、ご相談ください。

**Q7** 学生に活動してほしいのですが、不慮の事故などに対する補償制度はありますか？

**A7** 学生の教育研究活動中の事故による傷害等に対する保険として、全学生を対象に「学生教育研究災害傷害保険」に一括加入しています。さらに、学生の学外での活動に際して、他人にケガをさせたり、他人の物を壊した場合の補償として「学研災付帯賠償責任保険」の加入手続きも行っています。

**Q8** 自治体や企業が関西大学と地域連携協定を結ぶことで、どのようなメリットがありますか？また、結ばないと何かデメリットがありますか？

**A8** **A3** のとおり、地域連携事業は、教員が競争的資金や受託研究といった予算を獲得して自主的に行うものなので、地域連携協定を結ばなくても通常の活動にデメリットはありません。これらの資金は期限付きですので、地域連携協定を結んでも資金の終了とともに事業の終了が見込まれます。しかし、①長期的かつ大型の競争的資金による活動でその成果が自治体や企業の長期的な政策に反映できる、②複数の分野の研究（つまり複数の学部の教員による研究）が同時に進んでいてその成果が自治体や企業の総合的な政策に反映できる、③自治体や企業がその活動を支援する固有の資金を拠出する用意がある、④自治体や企業がその活動を支援するのに既存の予算からの支出や設備の利用を認める用意がある等の場合には、連携協定の目的や内容について相互の理解を固めるために協定を結ぶメリットがあります。特に自治体の場合、連携協定や、さらに細かな項目を明記した覚書を交わすことで、①②では住民に対する政策の表明、③④では活動を支援するための予算執行や設備利用（たとえば、公共交通機関や宿泊施設や会議施設の少ない地域での活動に便宜を供する等）について、議会や住民の理解を得る一助となります。

**Q9** 自治体や企業が地域連携協定を結ぶ相手は関西大学ということになりますか？

**A9** 関西大学と結ぶ包括的地域連携協定と、関西大学の一部局（学部、研究所等）と結ぶ地域連携協定とがあります。前者は、**A8** の②や③のように、複数の分野の研究者（複数の学部の教員）による研究が進んでおり、多方面かつ長期的な展望のもとにその成果が見込まれる場合です。単独の部局に属す研究者（教員）による活動の場合は、一部局との連携協定が適しています。

**Q10** 地域連携協定にはどのような内容を記載するのですか？

**A10** 地域連携協定の雛型を次頁に掲載しています。関西大学と結ぶ「包括的」地域連携協定は「包括的」の名の通り、地域の活性化（特定地区のまちづくり、地域産業の振興等）、住民の福利の向上（健康・福祉の増進、地域の防災等）、教育・文化の振興（学校教育活動の補助、市民講座、人材の育成、文化的遺産の学術調査、人的資源の交流等）と複数の分野にわたる事業内容を記載します。これに対して、一部局との連携協定では、事業内容はより特化したかたちで具体的に記載します。

**Q11** 細かい取り決めも地域連携協定に記載したほうがよいですか？

**A11** 取り決め内容が多岐にわたる場合は、覚書を作成します。たとえば、その活動が個人情報の調査を含む場合には、「守秘義務の遵守」を協定に記載し、具体的な指示事項は覚書に記載する、あるいは、研究成果を直接住民に開示する催しを自治体の主催で行う場合は、「研究成果の地域住民への開示」を協定に記載し、具体的な取り決めは覚書に記載するといった使い分けができます。いずれにしても、取り決めは双方の合意によるものなので、自治体や企業と大学側とで個別の事業ごとに文案を考えることとなります。

**Q12** 守秘義務の遵守については、大学側に指針はありますか？

**A12** 個人情報（それだけで個人が特定できる情報だけでなく、複数の情報を照らし合わせて個人が特定できる情報も含む）を取得する必要がある研究については、「関西大学における人を対象とする研究に関する倫理規程」を制定しており、審査委員会を設置しています。このほかにも部局によって独自の倫理審査委員会を設置しているところもあります。確認の必要がありましたら、研究者（教員）に適切な手続きが済んでいるかについてお問い合わせください。また、地域連携センターでもご質問に対応し、関連部署に照会いたします。

大学との包括的地域連携協定書

関西大学と〇〇市との連携協力に関する協定書

関西大学(以下「甲」という。)と〇〇市(以下「乙」という。)とは、相互の人的、知的資源の交流及び物的資源の活用を図り、第1条に掲げる目的を推進するために協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲及び乙が、包括的な連携のもと相互に協力し、活力ある地域づくり及び大学の活性化に寄与することを目的とする。

(連携協力事項)

第2条 甲及び乙は、次の事項について連携し協力するものとする。

- (1) 特色ある地域づくりに関する事項
(2) 教育・文化の振興に関する事項
(3) 人材育成に関する事項
(4) 福祉の増進に関する事項
(5) 地域産業の振興に関する事項
(6) 学術研究に関する事項
(7) その他、甲及び乙が協議して必要と認める事項

(期間)

第3条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の1ヶ月前までに、甲又は乙のいずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(その他)

第4条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他の事項については、甲及び乙が協議して別に定めるものとする。

以上のとおり協定を締結した証として、この証書2通を作成し、双方記名押印の上、各自1通を保有する。

年 月 日

(甲) 関西大学
学 長

(乙) 〇〇市
市 長

部局との地域連携協定書

関西大学〇〇学部と〇〇市との連携協力に関する協定書

関西大学(以下「甲」という。)と〇〇市(以下「乙」という。)とは、相互の人的、知的資源の交流及び物的資源の活用を図り、第1条に掲げる目的を推進するために協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲及び乙が相互に協力し、活力ある地域づくり及び大学の活性化に寄与することを目的とする。

(連携協力事項)

第2条 甲及び乙は、・・・(具体的な連携内容を文章化)・・・について連携し協力するものとする。

(期間)

第3条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の1ヶ月前までに、甲又は乙のいずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(その他)

第4条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他の事項については、甲及び乙が協議して別に定めるものとする。

以上のとおり協定を締結した証として、この証書2通を作成し、双方記名押印の上、各自1通を保有する。

年 月 日

(甲) 関西大学
〇〇学部長

(乙) 〇〇市
〇〇市長

# 学部・研究科一覧 (2025年3月現在)

変革の時代に求められる大学を、学部・大学院での教育を通して具現化。有用な人材と人類文化の担い手を養成します。

高度化・複雑化が増すばかりの現代にあって、社会環境の変化に即応し、総合的にものごとを検証できる広い視野と判断できる健全な価値観の育成が本学教育の目的です。「学理と実際の調和」を教育理念に、各学部では本質の理解と十分な基礎力の蓄積、問題解決につながる応用力と柔軟な思考力の醸成を推進。情報化・国際化に対応する新しいリテラシーの獲得、実験・実習やディベートなどの実践的なカリキュラムによって、真に有用な人材の

育成に力を注いでいます。

本学は現在、13の学部と13の大学院研究科、2つの専門職大学院、1つの別科を擁する総合大学であり、世界各地からの留学生を含め、約3万人が在籍しています。創立140年を目前に、本学はさらなる発展に向け、常に躍動する、活気のある大学として邁進しています。

		入学定員	所在地
学部	法学部	法学政治学科	715
	文学部	総合人文学科 英米文学英語学専修   英米文化専修   国語国文学専修   哲学倫理学専修   比較宗教学専修   芸術学美術史専修 ヨーロッパ文化専修   日本史・文化遺産学専修   世界史専修   地理学・地域環境学専修   教育文化専修 初等教育学専修   心理学専修   映像文化専修   文化共生学専修   アジア文化専修	770
	経済学部	経済学科 経済政策コース   歴史・思想コース   産業・企業経済コース   国際経済コース	726
	商学部	商学科 流通専修   ファイナンス専修   国際ビジネス専修   マネジメント専修   会計専修	726
	社会学部	社会学科 社会学専攻 / 心理学専攻 / メディア専攻 / 社会システムデザイン専攻	792
	政策創造学部	政策学科 政治経済専修   地域経営専修	250
		国際アジア学科	100
	外国語学部	外国語学科	165
	人間健康学部	人間健康学科	330
	総合情報学部	総合情報学科	500
	社会安全学部	安全マネジメント学科	275
	ビジネスデータサイエンス学部 ※2025年4月開設	ビジネスデータサイエンス学科	350
	システム理工学部	数学科 / 物理・応用物理学科 / 機械工学科 / 電気電子情報工学科	501
環境都市工学部	建築学科 / 都市システム工学科 / エネルギー環境・化学工学科	325	
化学生命工学部	化学・物質工学科 / 生命・生物工学科	347	
大学院	法学研究科	博士課程前期課程 法学・政治学専攻	30
		博士課程後期課程 法学・政治学専攻	8
	文学研究科	博士課程前期課程 総合人文学専攻 英米文学英語学専修   英米文化専修   国語国文学専修   哲学専修   芸術学美術史専修 日本史学専修   世界史学専修   ドイツ文学専修   フランス文学専修   地理学専修 教育学専修   文化共生学専修   映像文化専修	92
		博士課程後期課程 総合人文学専攻 英米文学英語学専修   国語国文学専修   哲学専修   史学専修   ドイツ文学専修 フランス文学専修   地理学専修   教育学専修   映像文化専修	19
	経済学研究科	博士課程前期課程 経済学専攻	35
		博士課程後期課程 経済学専攻	5
	商学研究科	博士課程前期課程 商学専攻	35
		博士課程後期課程 商学専攻	5
	社会学研究科	博士課程前期課程 社会学専攻 / 社会システムデザイン専攻 / メディア専攻	30
		博士課程後期課程 社会学専攻 / 社会システムデザイン専攻 / メディア専攻	9
	総合情報学研究科	博士課程前期課程 社会情報学専攻 / 知識情報学専攻	50
		博士課程後期課程 総合情報学専攻	8
	理工学研究科	博士課程前期課程 システム理工学専攻 環境都市工学専攻 化学生命工学専攻 数学分野   物理・応用物理学分野   機械工学分野   電気電子情報工学分野 建築学分野   都市システム工学分野   エネルギー環境・化学工学分野 化学・物質工学分野   生命・生物工学分野	336
		博士課程後期課程 総合理工学専攻 数学分野   物理・応用物理学分野   機械工学分野   電気電子情報工学分野 建築学分野   都市システム工学分野   エネルギー環境・化学工学分野 化学・物質工学分野   生命・生物工学分野	47
	外国語教育学研究科	博士課程前期課程 外国語教育学専攻	25
		博士課程後期課程 外国語教育学専攻	8
	心理学研究科	博士課程前期課程 心理学専攻 / 心理臨床学専攻	27
		博士課程後期課程 心理学専攻	6
	社会安全研究科	博士課程前期課程 防災・減災専攻	15
		博士課程後期課程 防災・減災専攻	5
	東アジア文化研究科	博士課程前期課程 文化交渉学専攻	18
		博士課程後期課程 文化交渉学専攻	12
	ガバナンス研究科	博士課程前期課程 ガバナンス専攻	12
博士課程後期課程 ガバナンス専攻		3	
人間健康研究科	博士課程前期課程 人間健康専攻	10	
	博士課程後期課程 人間健康専攻	4	
法務研究科 (法科大学院)	専門職学位課程 法曹養成専攻	40	
会計研究科 (会計専門職大学院)	専門職学位課程 会計人養成専攻	40	
別科	留学生別科 日本語・日本文化教育プログラム進学コース	130	

# 地域連携センターのご案内

## 関西大学 千里山キャンパス



### お問い合わせ先

関西大学  
社会連携部 地域連携センター

〒564-8680  
大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
TEL: 06-6368-1032 (平日 9:00~17:00)  
FAX: 06-6368-0858  
E-mail: chiiki-mm@ml.kandai.jp  
HP: <https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/chiiki/index.html>

### 地域連携事例集および研究者情報検索システムのご案内

本冊子の内容および研究者情報を以下のWEBサイトでご覧いただけます。

#### 地域連携事例集

[https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/partnership/case\\_list/index.html](https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/partnership/case_list/index.html)



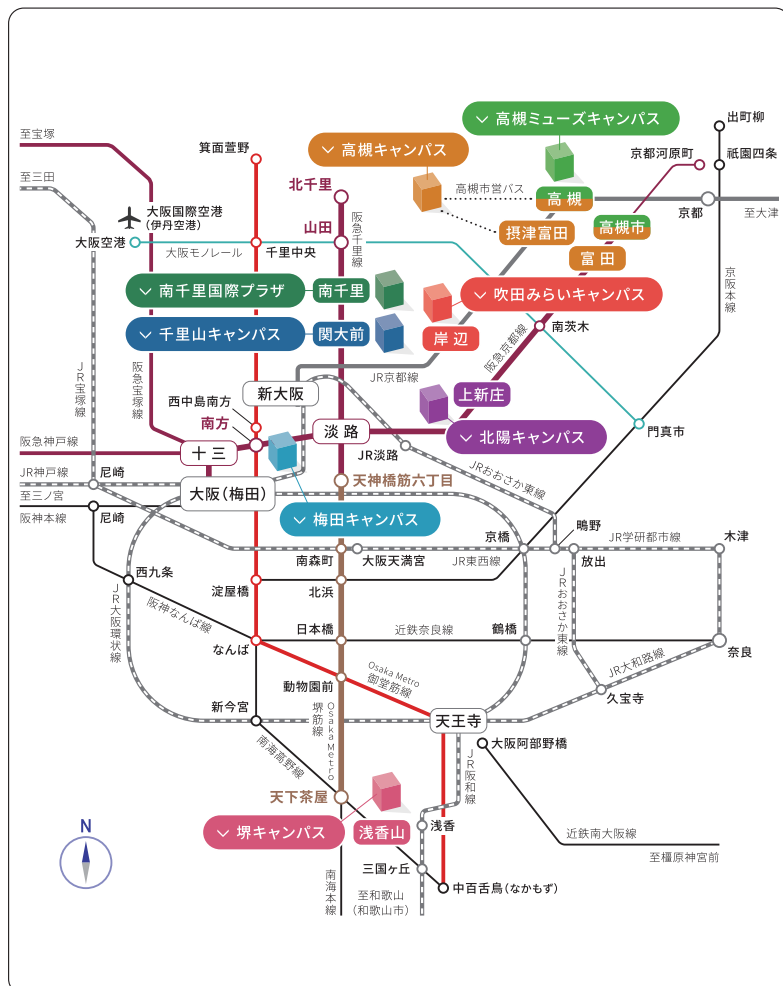
#### 学術情報システム

<https://kugakujo.kansai-u.ac.jp>



#### 関大先生チャンネル

<https://www.sensei-ch.rd.kansai-u.ac.jp>



# 関西大学 地域連携事例集 Vol.8

2025年3月 発行

発行・編集

関西大学 社会連携部 地域連携センター  
大阪府吹田市山手町3-3-35

印刷

尼崎印刷株式会社  
兵庫県尼崎市下坂部3-9-20

本書の収録内容の無断転載・複写・複製等を禁じます。

